

時間割コード	KB7801	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	井澤 耕一（IZAWA KOICHI）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

江戸時代の思想と文化、制度

授業の概要/Course Overview

本講義では、日本の江戸時代を中心にして、そこで展開した思想と文化さらに制度などについて、毎時テーマを設けて講義していく。教科書的な知識に加え、種々の資料を提示して日本近世の諸相を様々な角度から考察する。またテーマによっては明治時代や中国、朝鮮半島さらに西洋諸国の歴史・文化などにも言及する。

キーワード/Keyword(s)

江戸時代、日本思想史、東洋・西洋思想の交流と相克、日本近世制度史、明治時代、美術館・博物館

到達目標/Learning Objectives

史料を熟読して、日本近世の様相を理解できる。17世紀から19世紀までの東洋の歴史の流れを知ることができる。授業中講義した事柄を、学問的見地から分析・考察した上で、それを文章で正確に表現できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業はすべてオンラインで行う】

- 第1回 シラバスを用いたガイダンスおよび美術館・博物館案内
- 第2回 江戸の浮世絵 歌川国芳一代記
- 第3回 幕末から明治にかけての浮世絵 国芳のゲノム
- 第4回 渋川春海「天地明察」：江戸の改暦
- 第5回 只野真葛『むかしばなし』：ある才女の生き方
- 第6回 江戸の怪奇・不思議ばなし
- 第7回 太田南畝の世界：江戸の物知り博士
- 第8回 江戸の妖怪革命

【授業外学修】各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

- ①高校日本史教科書の「江戸時代」部分を必ず読了しておくこと。
- ②参考書に挙げた書籍を必ず読了しておくこと。
- ③本授業で扱う時代は「江戸時代」であるため、この時代を扱った書籍、雑誌、テレビ番組などを、日頃から関心を持って読んだり、見たりすること。（例）BS-TBS「にっぽん歴史鑑定」（毎週月曜日よる10時～）NHK「歴史探偵」（毎週水曜日よる10：30～）
- ④授業を受講した後、課外時間に配布されたプリントは必ず再読しておくこと。
- ⑤授業中紹介された書籍や論文を図書館や書店で探し、最低、当該箇所は精読すること。
- ⑥受講者が日ごろから興味関心を持っている事柄が、「江戸時代」と関連しないかを考え、もし関連するものがあれば、それをテーマに、ぜひ資料調査などを行ってほしい。
- ⑦授業において不明の点があれば、そのまま放置せず、授業終了後、質問をするか、メール（koichi.izawa.2525@vc.ibaraki.ac.jp）で担当

教員に尋ねること。

【アクティブ・ラーニング】

授業中適宜指名するので、自分の考えを正しい言葉づかいで表明してください。

履修上の注意/Notes

- ・授業で使用する資料は、教務情報ポータルにて事前にUPするので必ず参照すること。
- ・オンラインでトラブルがあった場合には、一旦退出の上、もう一度授業に参加すればいいので、慌てずにやり直してください。
- ・偽装出席は厳しくこれを禁ずる。授業中適宜指名するので緊張感をもって授業に出席すること。また遅刻も厳禁。

情報端末の活用

- ・オンライン授業なので、毎回の授業時にはPCを必ず用意すること。
- ・課題レポートは、教務情報ポータルを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	授業内容を十分に理解し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	授業内容をほぼ理解し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	授業内容を概ね理解し、かつ学修成果も概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	授業内容をほとんど理解しておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末レポート：100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	浮世絵師歌川列伝
著者名	飯島虚心著；玉林晴朗校訂
出版社	中央公論社
出版年	1993
ISBN	4122020077
教材費	

参考書2

書名	奇想の系譜
著者名	辻惟雄著
出版社	筑摩書房
出版年	2004

ISBN	4480088776
教材費	

参考書3

書名	月岡芳年伝：幕末明治のはざまに
著者名	菅原真弓著
出版社	中央公論美術出版
出版年	2018
ISBN	9784805508541
教材費	

参考書4

書名	河鍋暁斎 【岩波文庫】
著者名	ジョサイア・コンドル、山口静一（訳）
出版社	岩波書店
出版年	2006
ISBN	4003356918
教材費	

参考書5

書名	長久保赤水の天文学：《長久保赤水関係資料群693点》国の重要文化財指定記念誌
著者名	川口和彦 著
出版社	長久保赤水顕彰会
出版年	2021
ISBN	9784990795986
教材費	1000

参考書6

書名	渋川春海：失われた暦を求めて
著者名	林淳著
出版社	山川出版社
出版年	2018
ISBN	4634548503
教材費	

参考書7

書名	むかしばなし：天明前後の江戸の思い出 【平凡社東洋文庫】
著者名	只野真葛 [著]；中山栄子校注
出版社	平凡社
出版年	1984
ISBN	9784582804331.0
教材費	

参考書8

書名	江戸奇談怪談集【ちくま学芸文庫】
著者名	須永朝彦編訳
出版社	筑摩書房
出版年	2012
ISBN	4480094881.0
教材費	1700

参考書9

書名	江戸怪談文芸名作選（全5巻）
著者名	木越治責任編集
出版社	国書刊行会
出版年	2016
ISBN	
教材費	

参考書10

書名	『日本随筆大成』中の太田南畝作品
著者名	
出版社	吉川弘文館
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書11

書名	寝惚先生文集，狂歌才蔵集，四方のあか
著者名	大田南畝〔著〕；佐竹昭広〔ほか〕編；中野三敏〔ほか〕校注
出版社	岩波書店
出版年	1993
ISBN	4002400840.0
教材費	

参考書12

書名	江戸の妖怪革命【角川ソフィア文庫】
著者名	香川雅信〔著〕
出版社	角川学芸出版
出版年	2013
ISBN	9784044083205.0
教材費	

参考書13

書名	図説 日本妖怪史
著者名	香川 雅信 著・文・その他
出版社	河出書房新社
出版年	
ISBN	9784309763095.0
教材費	2150

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7802	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP,COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	杉本 妙子（Sugimoto Taeko）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

茨城の方言と民俗

授業の概要/Course Overview

地域の暮らしの中で培われてきたことばである方言について、茨城方言を例に理解を深める。テキストを用いて茨城方言を知るとともに、方言に表れている地域の暮らし・生活文化やその変化についても、具体的な方言に触れながら理解を深めていく。さらに、方言談話や方言昔話を聴いたり、身近な暮らしの中で使われている方言について考えたりしながら、方言の持つ働きや意味を考えていく。

キーワード/Keyword(s)

方言・共通語 茨城方言 茨城の民俗 茨城の暮らし 生活文化 方言談話 昔話と方言

到達目標/Learning Objectives

- (1)方言（方言と共通語）について、正しく理解できる。
- (2)茨城方言の特色、他方言との共通性や違い等の知識を深める。
- (3)方言談話や方言昔話をとおして、方言の働きや方言を支える地域の暮らしについて深く理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 【授業内容】シラバスを用いて、授業の内容・進め方について説明、「方言」とは？

（振り返りシート）「方言」とはどのようなものかを、授業前と後とで比較しながら振り返りシート（MS-Forms）に記入し、認識の違いを確認する。

【授業外学修】配信資料を用いて「方言」等について確認し、小課題として内容をまとめて提出する。

第2回 【授業内容】茨城方言を知る①：なぜ「イバラギ」か？～茨城方言の特色～

（ミニツツペーパー）茨城方言の特色について、新たに知ったことや理解したことをまとめて記入（MS-Forms）する。

【授業外学修】配信するテキストの発音に関する説明で復習する。第3回で取り上げるテキスト第1課を読み、わからない茨城方言があったら調べておく。

第3回 【授業内容】茨城方言を知る②：茨城方言を知ろう、使ってみよう1「ベ・ベ」

（ロールプレイ）テキストに沿って方言会話練習をする。

【授業外学修】テキストの第1課を復習する。また、小課題として、学んだ茨城方言を使って会話文を作り、実際に会話のやり取りをするなどしながら、茨城方言への理解を深める。第4回で取り上げるテキスト第2課を読み、わからない茨城方言があったら調べておく。

第4回 【授業内容】茨城方言を知る③：茨城方言を知ろう、使ってみよう2「さ」「け・げ」

（ロールプレイ）テキストに沿って方言会話練習をする。

【授業外学修】テキストの第2課を復習する。また、小課題として、学んだ茨城方言を使って会話文を作り、実際に会話のやり取りをするなどしながら、茨城方言への理解を深める。第5回の授業に関連して、テキストの第3章の3-2、3-3を読んで、わからない茨城方言があったら調べておく。

第5回 【授業内容】方言と暮らし①：生活の中の方言と地域的な広がり、暮らしの変化と方言、茨城の民俗

（録音資料活用学習）方言談話で語られた暮らしについてメモを作りながら録音資料を聴く。

【授業外学修】テキストや配布資料の方言談話等を使って授業内容を復習する。第6回の授業に関連して、テキストの第3章の3-1を読んで、わからない茨城方言があったら調べておく。

第6回 【授業内容】方言と暮らし②：茨城方言のあいさつと暮らし

(録音資料活用学習) あいさつが地域の暮らしを反映するものであることやあいさつの多様性についてメモを作りながら録音資料を聴く。

【授業外学修】テキストや配布資料のあいさつに関わる方言談話等を使って授業内容を復習する。第7回の授業に関連して、身近な中の方言を探して、なぜ方言が使われているのか、方言が使われていることの効果等を考えておく。

第7回 【授業内容】方言の持つ意味を考える

(映像活用学習) 提示した方言項目に注目しながら映像(または録音資料)を視聴する。また、視聴したのちに小グループで意見交換などしながら方言の働きについて考える。

【授業外学修】第7回の授業内容の復習をする。また、第8回の後半に期末テストを行うので、第1～7回の授業内容全般を復習しておく。

第8回(対面授業) 【授業内容】まとめ(45分)、期末テスト(45分)

【授業外学修】

(1) 予習として、教科書ならびに事前に配信資料等で予備知識をつけておく。

(2) 復習として、配信資料(授業時に用いるパワーポイント資料、配布資料等)や講義内容を振り返るとともに、教科書・参考書や各種方言辞典等を参考に理解を深める。

(3) 課題として、第1・3・4回に記載したことのほか、日常生活の中に見られる方言の使用についての観察・考察等の提出を求める。茨城方言や各地の方言について実際に興味を持って聴いてみることや、方言について他者と話してみることも学びの一つとして心がけてほしい。

(4) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

・毎回の授業において、ミニツツペーパー(MS-Forms)を用いて授業の理解度を確認する。

・受講者数によっては、第3・4回では小グループで方言会話練習を、第6・7回ではグループディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

授業時や復習・課題としての方言会話は積極的に行うこと。身近な暮らしやことば(方言)を日常的に観察するように心がけること。遅刻2回で欠席1回と見なす。各回の授業時間内に若干の質問時間を設ける予定であるが、時間が不足する場合は、毎回ごとのMS-Formsに記入するか、電子メールで対応する。

情報端末の活用

- ・講義資料(テキスト、配信資料)はMS-Teamsあるいはmanabaで事前配信するので、各自、目をとおしたり、プリントアウトしておくこと。
- ・小課題(小レポート、提出を要する宿題等)については、manaba等を通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 茨城の方言についての基本的な知識や方言の働きについて十分に理解・修得し、さらに説明できている。

A : 茨城の方言についての基本的な知識や方言の働きについて修得し、説明できている。

B : 茨城の方言についての基本的な知識や方言の働きについて概ね修得し、説明できている。

C : 茨城の方言についての基本的な知識や方言の働きについて最低限の修得をしており、説明できている。

D : 茨城の方言についての基本的な知識や方言の働きについて修得できておらず、説明もできていない。

成績の評価方法/Grading

期末テスト50%、小レポート30%、授業への参加度・貢献20%で評価。期末テストでは、到達目標(1)(2)について問う。小レポートでは、到達目標(3)への接近度を確認して評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	しみじみ楽しく茨城のことば
著者名	杉本妙子編
出版社	(茨城大学)
出版年	2015
ISBN	
教材費	0

備考	上記教科書のほか、適宜、資料を教務情報ポータルサイトあるいはTeamsにアップロードする。
----	---

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日本のふるさとことば集成 第4巻 茨城・栃木
著者名	国立国語研究所編
出版社	国書刊行会
出版年	2002
ISBN	336043647
教材費	6800

参考書2

書名	ガイドブック方言研究
著者名	小林隆・篠崎晃一編
出版社	ひつじ書房
出版年	2003
ISBN	4894761831
教材費	1800

参考書3

書名	方言学入門
著者名	木部暢子・他
出版社	三省堂
出版年	2013
ISBN	9784385363936
教材費	1800

参考書4

書名	茨城方言民俗語辞典
著者名	赤城毅彦
出版社	東京堂出版
出版年	1991
ISBN	449012968

教材費	11000
-----	-------

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

<input type="radio"/>

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7803	ナンバリング	KB-HUM-132-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

Communication and Mindset in Japanese Society A

授業の概要/Course Overview

The following points will be taken up in this course: Individualism-Collectivism, Self-construals, Amai, Sasshi, Enryo, High/Low communication style, High/Low context culture, Ingroup-Outgroup, Silence (Chinmoku, Ma), Haragei, Honorifics (Keigo), Uncertainty Avoidance, Power Distance, Masculinity-Femininity and so forth.

キーワード/Keyword(s)

Communication, Japanese culture, American culture, cultural difference, foreign cultures

到達目標/Learning Objectives

The purpose of this course is to know similarities and differences in patterns of communication in Japan and the United States to conduct communication more effectively with North Americans. Students will learn not only the differences of language usage but also the reasons why such differences appear in their interpersonal communication from the view of cultural variability.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. What is culture?
3. Individualism-Collectivism and Self-Conceptions
4. Ingroups-Outgroups (The concept of Us and Them)
5. Low and High Context Communication
6. Japanese Concept of Amai and Enryo
7. Uncertainty Avoidance and Power Distance
8. Masculinity-Femininity

[Homework]

Prepare own presentation for assigned session. Review the lecture materials after each class. Prepare and submit reaction comments after your classmate's presentation.

[Active Learning]

Students will make presentation at least once and conduct group discussion in every session.

履修上の注意/Notes

This course will be partially lecture and mainly discussions. It includes active learning that student would learn intercultural communication through joining each discussion session.

Basically this course will be conducted in English. Students will come across a lot of technical terms which they learned in the course of "心理学でみる異文化適応". in the first quarter. In order to understand what they will learn in this course effectively, the instructor would say that it is very much preferable to take the course of "心理学でみる異文化適応" too.

If you are late for three times, it will be counted as one absent.

情報端末の活用

PC等活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Students not only who have actively participated in discussions, but also who have given a well-prepared presentation with clear speaking skills.

A : Students not only who have actively participated in discussions, but also who have given a well-prepared presentation.

B : Students who need more efforts to participate in discussions, but who have given a well-prepared presentation.

C : Students who need more effort to participate in both discussions and presentation.

D : Students not only who have not participated well in discussions, but also who did not prepare their own presentation.

成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Reaction paper 40 %, Presentation 60 % (Once or twice).

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	Bridging Japanese/North American differences / William B. Gudykunst, Tsukasa Nishida
著者名	西田, 司, 1948-
出版社	Sage Publications
出版年	1994
ISBN	978-0803948358
教材費	7148

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎

社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7804	ナンバリング	KB-HUM-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	中田 潤（Jun Nakata）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ヨーロッパの歴史 近代以降のドイツを中心に

授業の概要/Course Overview

「現代に生きる私たちは、過去を主体的にとらえることなしに未来への展望をたてることはできない」これはイギリスの外交官でありまた歴史家でもあった、ある人物の言葉である。彼の言葉に従って、現代社会の意味を理解するために、過去の社会を検討してみたい。具体的にはヨーロッパ近現代社会の成立過程をドイツを中心に取り扱っていく。

キーワード/Keyword(s)

多文化共生, 環境問題, 市民社会, ジャガイモ, 建築, ヨーロッパ, 第二次世界大戦, 国民国家, 民族対立, ナチズム, ドイツ, ホロコースト, 国際政治, 平和, 再生可能エネルギー

到達目標/Learning Objectives

1. ヨーロッパにおける国民国家体制と国際秩序の特徴について理解できるようになる
2. 現代社会の持つ歴史的な構造とその問題点を理解する
3. その上で、自律的かつ戦略的な意思決定ができる主体とはいかなるものか、考察できるようになる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス

第2回：ジャガイモから読み解くヨーロッパの歴史

第3回：建築から見るヨーロッパの歴史：古代ギリシャからゴシックまで

第4回：建築から見るヨーロッパの歴史：ルネサンスからポスト・モダンまで

第5回：第一次世界大戦後の国際関係とナチズム体制

第6回：ホロコースト

第7回：ドイツにおける原子力問題の歴史：成長至上主義と市民社会

第8回：エコロジーと再生可能エネルギーの歴史：バイオマス発電を事例に

【授業外学修】 予習：次回の内容について、参考文献の関係箇所を読んでおく。復習：自らの作成したノート、参考文献の関係箇所を読み直す。それでも理解できなかった点はオフィスアワー等を活用して、積極的に教員に質問する。さらなる専門性を深めたいと考える場合、積極的に教員の門戸を叩いてください。講義のレベルとは比較にならない世界が、そこにはあります。

【アクティブ・ラーニング】 毎回コメントシートの提出

履修上の注意/Notes

授業で使用する資料はmanabaを通して配布するので、事前学習に使用していただきたい。履修に際しての予備知識は特に要求しませんが、高校で歴史の授業に比較して深い内容に立ち入ることになります。そこで、主体的な学習を可能にするために、下記の参考文献の他、講義の

際に指定する文献を平行して読み進めて頂きたいと思います。遅刻は認めません。オフィスアワーは水曜日の昼休みとアポイントメントをとった上で随時です。（アポイントは各回の講義の終了後をお願いします）

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステム等で配信するので、PCを準備しておくこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

コメントシートの内容に基づく平常点40%および期末レポート60%。ともに、到達目標1～3の理解度を評価の主要な観点とする。コメントシートおよび期末レポートの課題内容については授業時間内に説明する。またコメントシートおよび期末レポートの出題および提出はmanabaを通して行います。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	現代の欧米世界：文献解説：西洋近現代史 3
著者名	中野隆生, 中嶋毅 共編
出版社	南窓社
出版年	2011
ISBN	9784816503955
教材費	1714

参考書2

書名	二つの世界大戦
著者名	木村靖二 著
出版社	山川出版社
出版年	1996
ISBN	463434470X
教材費	750

参考書3

書名	国民国家とナショナリズム
著者名	谷川稔 著

出版社	山川出版社
出版年	1999
ISBN	9784634343504
教材費	729

参考書4

書名	ジャガイモの世界史：歴史を動かした「貧者のパン」
著者名	伊藤章治著
出版社	中央公論新社
出版年	2008
ISBN	978-4121019301
教材費	924

参考書5

書名	「新しい社会運動としての環境保護市民運動（Bürgerinitiative）ニーダーザクセン州における原子力関連施設建設反対運動を事例に」
著者名	中田 潤
出版社	
出版年	2018
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	熱心に取り組んで頂けるならばそれ以外は特にありません。
--------	--	-------	-----------------------------

時間割コード	KB7805	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 章夫				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

心理学の基礎的な知識と考え方を学ぶ。毎回の授業内容に通底するテーマは日常生活での感情・ストレスであり、このテーマに関連する研究成果と理論を取り上げて解説する。授業内容の理解を深めるために、あるテーマについて出席者が意見交換をおこない、自分の考えを言葉にする簡単な作業を挿入する。学びを通して自己や他者の感情・ストレスについて心理学の視点から理解を深めることを目指してみたい。

キーワード/Keyword(s)

「心理学」「感情」「ストレス」「認知」「社会」

到達目標/Learning Objectives

- ①心理学の基本的な知識と考え方を理解できる。
- ②感情・ストレスを生み出す心の仕組みを文章で説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス
- 第2回 これからの授業を理解するために必要な心理学の基礎知識を身につける。
- 第3回 感情・ストレスを生み出す認知的な仕組みを理解する。
- 第4回 ストレスと認知1（原因帰属）の関連について理解する。
- 第5回 ストレスと認知2（自己効力感）の関連について理解する。
- 第6回 対人場面で生じるストレスと認知の関連について理解する。
- 第7回 幸福感と認知との関連性について理解する。
- 第8回 授業に関する質疑応答（45分）、試験（45分）

【授業外学習】

- 1回目：資料を印刷して全体に目を通してください。
- 2回～7回：授業のポイントを示すために30分～60分程度で回答可能なクイズを出します。授業終了後に取り組んでください。
- 7回目と8回目：試験範囲を復習をしてください。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回の授業中に、授業テーマについて受講生同士が意見交換した上で、自分の意見をweb上で報告する作業を挿入します。PCを持参してください。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めません。

情報端末の活用

授業中にPCを使用します。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末テスト（1回）60%、授業中の作業（4点×5回）20%、授業終了後のクイズ（4点×5回）20%

評価の観点はいずれも到達目標の①②

教科書/Textbook(s)

備考 教科書は用いず、資料をTeasで配布する。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	自分でできるストレス・マネジメント：活力を引き出す6つのレッスン
著者名	島津明人, 島津美由紀
出版社	培風館
出版年	2008
ISBN	9784563057183
教材費	1540

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7806	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	高野 光平（KONO KOHEI）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

太平洋戦争とメディア

授業の概要/Course Overview

太平洋戦争における日本の宣伝政策を題材に、戦争とメディアの関係について考える授業。新聞・雑誌・ラジオ・映画などのメディアが戦争とどのように関わったのかを、画像・映像資料と各種文字資料を組み合わせることで追体験していく。

キーワード/Keyword(s)

戦争とメディア、メディア史、プロパガンダ、新聞、雑誌、ラジオ、映画

到達目標/Learning Objectives

- (1)メディア史という学問分野がどのようなものであるかを理解できる。
- (2)メディアと社会との関係について歴史的視点から理解できる。
- (3)歴史資料（とくに画像・映像資料）の特徴とその意義について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 01 講義の概要説明／戦争のメディア史
- 02 爆弾（肉弾）三勇士と忠犬八子公
- 03 国民精神総動員と「愛国行進曲」
- 04 紀元二千六百年
- 05 映画と戦争：太平洋戦争開始まで
- 06 映画と戦争：太平洋戦争開始から敗戦まで
- 07 紙の爆弾：伝単の情報世界
- 08 戦争末期のラジオ

【授業外学修】

授業で扱う視聴覚教材や資料を授業後に見直し、復習することを求める。

【アクティブ・ラーニング】

授業終了後に感想文・質問の提出を求め、理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- (1) 感想文・質問の未提出は欠席とみなす。正当な理由なき欠席が4回になった者には原則として単位を与えない。

- (2) オフィス・アワーは毎週金曜日12～13時とするが、事前連絡があれば随時対応する。
- (3) リアルタイム配信型の回については、20分以上遅刻してログインした者は欠席扱いとする。

情報端末の活用

事前・事後にTeamsにアップした資料の通読を求められることがある。
課題レポートはmanabaを通じて提出する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末レポート100%で評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○ (感想文・質問の提出)

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7807	ナンバリング	KB-HUM-132-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

Communication and Mindset in Japanese Society B

授業の概要/Course Overview

The following points will be taken up in this course: Individualism-Collectivism, Self-construals, Amai, Sasshi, Enryo, High/Low communication style, High/Low context culture, Ingroup-Outgroup, Silence (Chinmoku, Ma), Haragei, Honorifics (Keigo), Uncertainty Avoidance, Power Distance, Masculinity-Femininity and so forth.

キーワード/Keyword(s)

Communication, Japanese culture, American culture, cultural difference, foreign cultures

到達目標/Learning Objectives

The purpose of this course is to know similarities and differences in patterns of communication in Japan and the United States to conduct communication more effectively with North Americans. Students will learn not only the differences of language usage but also the reasons why such differences appear in their interpersonal communication from the view of cultural variability.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. What is culture?
3. Enculturation
4. Culture, Self, and Identity
5. Culture and personality
6. Culture and Gender
7. Culture and Cognition
8. Culture, Language, and Communication

[Homework]

Prepare own presentation for assigned session. Review the lecture materials after each class. Prepare and submit reaction comments after your classmates presentation.

[Active Learning]

Students will make presentation at least once and conduct group discussion in every session.

履修上の注意/Notes

This course will be partially lecture and mainly discussions. It includes active learning that student would learn intercultural communication through joining each discussion session.

Basically this course will be conducted in English. Students will come across a lot of technical terms which they learned in the course of "心理学でみる異文化適応". in the first quarter. In order to understand what they will learn in this course effectively, the instructor would say that it is very much preferable to take the course of "心理学でみる異文化適応" too.

If you are late for three times, it will be counted as one absent.

情報端末の活用

PC等活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Students not only who have actively participated in discussions, but also who have given a well-prepared presentation with clear speaking skills.

A : Students not only who have actively participated in discussions, but also who have given a well-prepared presentation.

B : Students who need more efforts to participate in discussions, but who have given a well-prepared presentation.

C : Students who need more effort to participate in both discussions and presentation.

D : Students not only who have not participated well in discussions, but also who did not prepare their own presentation.

成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Reaction paper 40 %, Presentation 60 % (Once or twice).

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	Culture and psychology
著者名	David Matsumoto, Linda Juang
出版社	Cengage Learning
出版年	2016
ISBN	978-1305648951
教材費	10812

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎

社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7808	ナンバリング	KB-HUM-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	中田 潤（Jun Nakata）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ヨーロッパの歴史 近代以降のドイツを中心に

授業の概要/Course Overview

「現代に生きる私たちは、過去を主体的にとらえることなしに未来への展望をたてることはできない」これはイギリスの外交官でありまた歴史家でもあった、ある人物の言葉である。彼の言葉に従って、現代社会の意味を理解するために、過去の社会を検討してみたい。具体的にはヨーロッパ近現代社会の成立過程をドイツを中心に取り扱っていく。

キーワード/Keyword(s)

多文化共生, 環境問題, 市民社会, ジャガイモ, 建築, ヨーロッパ, 第二次世界大戦, 国民国家, 民族対立, ナチズム, ドイツ, ホロコースト, 国際政治, 平和, 再生可能エネルギー

到達目標/Learning Objectives

1. ヨーロッパにおける国民国家体制と国際秩序の特徴について理解できるようになる
2. 現代社会の持つ歴史的な構造とその問題点を理解する
3. その上で、自律的かつ戦略的な意思決定ができる主体とはいかなるものか、考察できるようになる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス

第2回：ジャガイモから読み解くヨーロッパの歴史

第3回：建築から見るヨーロッパの歴史：古代ギリシャからゴシックまで

第4回：建築から見るヨーロッパの歴史：ルネサンスからポスト・モダンまで

第5回：第一次世界大戦後の国際関係とナチズム体制

第6回：ホロコースト

第7回：ドイツにおける原子力問題の歴史：成長至上主義と市民社会

第8回：エコロジーと再生可能エネルギーの歴史：バイオマス発電を事例に

【授業外学修】 予習：次回の内容について、参考文献の関係箇所を読んでおく。 復習：自らの作成したノート、参考文献の関係箇所を読み直す。 それでも理解できなかった点はオフィスアワー等を活用して、積極的に教員に質問する。 さらなる専門性を深めたいと考える場合、積極的に教員の門戸を叩いてください。 講義のレベルとは比較にならない世界が、そこにはあります。

【アクティブ・ラーニング】 毎回コメントシートの提出

履修上の注意/Notes

授業で使用する資料はmanabaを通して配布するので、事前学習に使用していただきたい。履修に際しての予備知識は特に要求しませんが、高校で歴史の授業に比較して深い内容に立ち入ることになります。そこで、主体的な学習を可能にするために、下記の参考文献の他、講義の

際に指定する文献を平行して読み進めて頂きたいと思います。遅刻は認めません。オフィスアワーは水曜日の昼休みとアポイントメントをとった上で随時です。（アポイントは各回の講義の終了後をお願いします）

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステム等で配信するので、PCを準備しておくこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

コメントシートの内容に基づく平常点40%および期末レポート60%。ともに、到達目標1～3の理解度を評価の主要な観点とする。コメントシートおよび期末レポートの課題内容については授業時間内に説明する。またコメントシートおよび期末レポートの出題および提出はmanabaを通して行います。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	現代の欧米世界：文献解説：西洋近現代史 3
著者名	中野隆生, 中嶋毅 共編
出版社	南窓社
出版年	2011
ISBN	9784816503955
教材費	1714

参考書2

書名	二つの世界大戦
著者名	木村靖二 著
出版社	山川出版社
出版年	1996
ISBN	463434470X
教材費	750

参考書3

書名	国民国家とナショナリズム
著者名	谷川稔 著

出版社	山川出版社
出版年	1999
ISBN	9784634343504
教材費	729

参考書4

書名	ジャガイモの世界史：歴史を動かした「貧者のパン」
著者名	伊藤章治著
出版社	中央公論新社
出版年	2008
ISBN	978-4121019301
教材費	924

参考書5

書名	「新しい社会運動としての環境保護市民運動（Bürgerinitiative）ニーダーザクセン州における原子力関連施設建設反対運動を事例に」
著者名	中田 潤
出版社	
出版年	2018
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	熱心に取り組んで頂けるならばそれ以外は特にありません。
--------	--	-------	-----------------------------

時間割コード	KB7809	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	高橋 修				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

描かれた戦国合戦の光景－中世日本の戦う男たち－

授業の概要/Course Overview

戦国時代の合戦を、極彩色の細密画で豪華絢爛に再現した「戦国合戦図屏風」。投影された屏風絵の図像を鑑賞しながら、戦国時代の合戦に思いを馳せつつ図像を分析・解釈し、その成立の裏側にあった大名家の思惑や意図を読み解きます。

キーワード/Keyword(s)

歴史学 史料 戦国時代 戦国合戦 大名 合戦図屏風

到達目標/Learning Objectives

- ・歴史を復元する素材としての史料について、具体的に知ることができる。
- ・史料から歴史を復元する過程や方法について知ることができる。
- ・史料が残された背景、史料が語る歴史と語らない歴史について、認識することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス ー戦国合戦とは何か？「戦国合戦図屏風」とは何か？ー
【授業外学修】レジュメ、参考文献を用いて、授業内容の復習をしておくこと
- 第2回 川中島の戦いー謙信・信玄の一騎打ち図像が語るものー
【授業外学修】レジュメ、参考文献を用いて、授業内容の復習をしておくこと
- 第3回 長篠の戦いー信長ではなく家康の戦勝ー
【授業外学修】レジュメ、参考文献を用いて、授業内容の復習をしておくこと
- 第4回 長久手の戦いーもうひとつのいくさ物語ー
【授業外学修】レジュメ、参考文献を用いて、授業内容の復習をしておくこと
- 第5回 関ヶ原の戦いー聳え立つモニュメントー
【授業外学修】レジュメ、参考文献を用いて、授業内容の復習をしておくこと
- 第6回 大坂冬の陣ー戦場の現実を語るー
【授業外学修】レジュメ、参考文献を用いて、授業内容の復習をしておくこと
- 第7回 大坂夏の陣ー元和のゲルニカ、合戦の記憶ー
【授業外学修】レジュメ、参考文献を用いて、授業内容の復習をしておくこと
- 第8回 前半 まとめー戦国合戦はなぜ描かれたのか？ 後半 期末試験
【授業外学修】レジュメ、参考文献を用いて、授業内容の復習をしておくこと

履修上の注意/Notes

原則として遅刻は認めない。

情報端末の活用

PC使用。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 日本史学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 日本史学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 日本史学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 日本史学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 日本史学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

毎回授業の中で、小テストをmanabaで実施する。小テスト100%で評価する。定期試験は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	指定なし。
----	-------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	絵で知る日本史 1~30
著者名	高橋修指導
出版社	集英社
出版年	2011
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	図説 戦国合戦図屏風
著者名	高橋修監修
出版社	学研
出版年	2002
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	戦国合戦図屏風の歴史学
著者名	高橋修
出版社	勉誠出版
出版年	2021

ISBN	
教材費	9900

参考書4

書名	もうひとつの川中島合戦
著者名	高橋修
出版社	洋泉社
出版年	2007
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

県立博物館学芸員としての経験や研究成果を活かした講義科目である。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7810	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 章夫				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

心理学の基礎的な知識と考え方を学ぶ。毎回の授業内容に通底するテーマは日常生活での感情・ストレスであり、このテーマに関連する研究成果と理論を取り上げて解説する。授業内容の理解を深めるために、あるテーマについて出席者が意見交換をおこない、自分の考えを言葉にする簡単な作業を挿入する。学びを通して自己や他者の感情・ストレスについて心理学の視点から理解を深めることを目指してみたい。

キーワード/Keyword(s)

「心理学」「感情」「ストレス」「認知」「社会」

到達目標/Learning Objectives

- ①心理学の基本的な知識と考え方を理解できる。
- ②感情・ストレスを生み出す心の仕組みを文章で説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス
- 第2回 これからの授業を理解するために必要な心理学の基礎知識を身につける。
- 第3回 感情・ストレスを生み出す認知的な仕組みを理解する。
- 第4回 ストレスと認知1（原因帰属）の関連について理解する。
- 第5回 ストレスと認知2（自己効力感）の関連について理解する。
- 第6回 対人場面で生じるストレスと認知の関連について理解する。
- 第7回 幸福感と認知との関連性について理解する。
- 第8回 授業に関する質疑応答（45分）、試験（45分）

【授業外学習】

- 1回目：資料を印刷して全体に目を通してください。
- 2回～7回：授業のポイントを示すために30分～60分程度で回答可能なクイズを出します。授業終了後に取り組んでください。
- 7回目と8回目：試験範囲を復習をしてください。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回の授業中に、授業テーマについて受講生同士が意見交換した上で、自分の意見をweb上で報告する作業を挿入します。PCを持参してください。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めません。

情報端末の活用

授業中にPCを使用します。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D 感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末テスト（1回）60%、授業中の作業（4点×5回）20%、授業終了後のクイズ（4点×5回）20%

評価の観点はいずれも到達目標の①②

教科書/Textbook(s)

備考 教科書は用いず、資料をTeasで配布する。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	自分でできるストレス・マネジメント：活力を引き出す6つのレッスン
著者名	島津明人, 島津美由紀
出版社	培風館
出版年	2008
ISBN	9784563057183
教材費	1540

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7811	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	高野 光平（KONO KOHEI）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

太平洋戦争とメディア

授業の概要/Course Overview

太平洋戦争における日本の宣伝政策を題材に、戦争とメディアの関係について考える授業。新聞・雑誌・ラジオ・映画などのメディアが戦争とどのように関わったのかを、画像・映像資料と各種文字資料を組み合わせることで追体験していく。

キーワード/Keyword(s)

戦争とメディア、メディア史、プロパガンダ、新聞、雑誌、ラジオ、映画

到達目標/Learning Objectives

- (1)メディア史という学問分野がどのようなものであるかを理解できる。
- (2)メディアと社会との関係について歴史的視点から理解できる。
- (3)歴史資料（とくに画像・映像資料）の特徴とその意義について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 01 講義の概要説明／戦争のメディア史
- 02 爆弾（肉弾）三勇士と忠犬八子公
- 03 国民精神総動員と「愛国行進曲」
- 04 紀元二千六百年
- 05 映画と戦争：太平洋戦争開始まで
- 06 映画と戦争：太平洋戦争開始から敗戦まで
- 07 紙の爆弾：伝単の情報世界
- 08 戦争末期のラジオ

【授業外学修】

授業で扱う視聴覚教材や資料を授業後に見直し、復習することを求める。

【アクティブ・ラーニング】

授業終了後に感想文・質問の提出を求め、理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- (1) 感想文・質問の未提出は欠席とみなす。正当な理由なき欠席が4回になった者には原則として単位を与えない。

- (2) オフィス・アワーは毎週金曜日12～13時とするが、事前連絡があれば随時対応する。
- (3) リアルタイム配信型の回については、20分以上遅刻してログインした者は欠席扱いとする。

情報端末の活用

事前・事後にTeamsにアップした資料の通読を求められることがある。
課題レポートはmanabaを通じて提出する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末レポート100%で評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○ (感想文・質問の提出)

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7821	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	添田 仁（Soeda Hitoshi）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

外国人が見た江戸時代

授業の概要/Course Overview

江戸時代に生きた人びとは、西洋文化と出会い、近代化（西洋化）の途をたどるなかで、何を失い、何を得たのか。江戸時代の日本を見た外国人の目を通して、当時の日本社会とその文化の様相を復元するとともに、近代化の過程における日本人の異文化理解の変遷とその特質について、歴史的な観点から論じる。

キーワード/Keyword(s)

日本史 江戸時代 風俗 異文化理解 史料批判 客観性 相対化

到達目標/Learning Objectives

- 1) 中学・高校で学んできた「日本史」と大学で学ぶ「歴史学」の違いを理解できる。
- 2) 過去に書かれた記録から、その時代の人びとの発想や情景を読み取ることができる。
- 3) 日本の歴史や文化の特質を、世界的かつ客観的な視点から理解することができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1) 導入 シラバスを用いたガイダンス／「日本史」と「歴史学」の違い
- 2) 失われた日本の風景
- 3) 日本人の容姿
- 4) 礼儀正しくて下品
- 5) 裸体と性－ヤマトナデシコの性事情－
- 6) 開かれた売買春
- 7) 勤勉となまけ者
- 8) まとめ－異文化を理解すること－

【授業外学修】

- (1) 高校の歴史教科書を持っている者は、明治維新期の部分にあらかじめ目を通しておくとよい。
- (2) 講義資料は授業の中で配布するので、授業前に読んで、分からない用語などはあらかじめ調べておくことが望ましい。

【アクティブラーニング】

ミニツツペーパー。毎回授業終了前後に「小テスト」を行い、その日の授業の理解度を確認するとともに、授業に対する意見や質問を収集する。次回授業の冒頭で、一部を紹介して、授業に対する理解を深め、共有する。

履修上の注意/Notes

初回の授業に必ず出席すること。資料はレジюме（PDF）を配布し、その内容を説明しながら授業を行う。また、毎回授業の最後に「小テスト」（授業の内容に関わる問いへの回答、授業に対する感想や意見）を課し、その内容を次回の授業冒頭でも紹介して、課題や関心を受講者の中で共有しながら進める。なお、授業開始後20分までの入室しか認めない。それ以降にアクセスした場合は欠席とみなす。オフィスアワーは火曜日6限。

情報端末の活用

講義資料はTeams等で事前配信するので、毎回の授業時にはPCを用意すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は行わない。毎回授業終了前後に課す「小テスト」への回答及び授業に対する意見や質問の内容（評価比率100%）で評価する。「小テスト」は、到達目標1）～3）の理解度を評価の主要な観点とする。授業を欠席すると当日の「小テスト」を受験できなくなり、その分が減点になるので注意すること。なお、授業を3回以上欠席した場合（遅刻による欠席も含む）は、採点の対象外となる。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：とくになし。随時レジюмеを配布する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	逝きし世の面影
著者名	渡辺京二
出版社	平凡社
出版年	2005
ISBN	978-4582765526
教材費	1900

参考書2

書名	欧米人の見た開国期日本
著者名	石川榮吉
出版社	風響社
出版年	2008
ISBN	978-4894891210
教材費	2500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7822	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	本山 宏希（MOTOYAMA HIROKI）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

この授業では、心理学とはどのような学問か、研究はどのように進められているかなどについて、認知心理学領域を中心に心理学全般を概観します。講義と簡単なデモンストレーションを通して、授業を進めていきます。心理学に関する基本的な知識を身につけること、科学的な視点から「心」を捉える意識を持つことを目指します。

キーワード/Keyword(s)

認知、記憶、学習、思考、パーソナリティ、認知工学

到達目標/Learning Objectives

心理学の基本的な用語を理解する。
日常的に体験される心理現象を心理学の用語、考え方をを用いて説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス
- 第2回 記憶：日常の記憶について
- 第3回 学習：レスポナント条件づけ
- 第4回 学習：オペラント条件づけ
- 第5回 思考：人間の思考の特性
- 第6回 思考：人間の主観的確率判断の特性
- 第7回 パーソナリティ：人の性格をどのように捉えるか
- 第8回 認知工学（45分）およびテスト（45分）

【授業外学習】

- （1）講義資料、参考文献を参考に授業で扱った内容を復習することが望ましい。
- （2）講義内容でとりあげた心理現象と対応する日常的な心理体験を結びつけること。また、そういった心理体験がどのようなメカニズムで生じているかを説明できるようにすること。

履修上の注意/Notes

授業中に小テストを実施します。また、8回目に最終試験を実施します。それらの総計によって評価は決定されます。
オフィスアワー：火曜日昼休み

30分以上遅刻した場合は欠席とします。

情報端末の活用

PCを用意すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 心理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（40%）と第8回目後半に実施される最終テスト（60%）から評価を行います。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	基礎心理学入門
著者名	田山忠行, 須藤昇 共編
出版社	培風館
出版年	2012
ISBN	9784563052201
教材費	2300

参考書2

書名	基礎から学ぶ心理学・臨床心理学
著者名	山祐嗣, 山口素子, 小林知博 編著
出版社	北大路書房
出版年	2009
ISBN	9784762826726
教材費	2500

参考書3

書名	グラフィック心理学
著者名	北尾倫彦 [ほか]共著
出版社	サイエンス社
出版年	1997

ISBN	9784781908250
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="checkbox"/>
コミュニケーション力	<input type="checkbox"/>
実践的英語力	<input type="checkbox"/>
社会人としての姿勢	<input type="checkbox"/>
地域活性化志向	<input type="checkbox"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7823	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	松本 光太郎				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

環境心理学入門

授業の概要/Course Overview

この授業では、身の周りにある環境に関する講義と課題を通して、私たちの心に関する理解が広がる・深まることを目指します。

キーワード/Keyword(s)

心理、環境、身体、対象、生活、知覚、行為、移動

到達目標/Learning Objectives

- ・心理学の知見を理解できる
- ・課題に積極的に取り組むことができる
- ・私たちの身の周りおよび人の心について理解が深まる
- ・地域の具体的な課題に関する理解が進む

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを使ったガイダンス
- 2 講義1：環境と人間との関係
- 3 講義2：環境の中を動く、環境に出会う
- 4 講義3：知覚と行為（課題1：探す）
- 5 課題1の検討
- 6 課題2：つくる
- 7 課題2の検討
- 8 まとめ

【授業外学習】

- ・課題に取り組む際に、授業の内容を理解しておくことが必要であるため、復習をしておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義で学んだことを課題を通して、理解を深め、さらに学びを広げていく。
- ・授業終了時には、小レポートを通して理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則認めない。

情報端末の活用

PCあるいはタブレットを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 環境心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、課題やレポートが特に秀でている。
A : 環境心理学の基本的な知識と考え方を修得し、課題やレポートが秀でている。
B : 環境心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、標準的な課題やレポートを提出している。
C : 環境心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、最低限の課題やレポートを提出している。
D : 環境心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに課題やレポートが評価できない。

成績の評価方法/Grading

課題が50%、授業時の小レポートが20%、期末レポートが30%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	生態学的視覚論
著者名	ギブソン
出版社	誠信書房
出版年	1985
ISBN	
教材費	4593

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7824	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	細川 美由紀				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

心理学入門

授業の概要/Course Overview

「心理学」とひとことで言ってもその領域は多岐にわたります。この講義では、これらの心理学の領域の中から代表的なトピックスを学ぶことを通じて、私たちの日々の行動や心の動きを振り返ることや、自分や周りの人たちを理解するヒントを得ることをねらいとしています。

キーワード/Keyword(s)

知覚、記憶、学習、情動、適応、性格、発達

到達目標/Learning Objectives

- ①心理学で用いられる基本的な用語や概念を理解することができる。
- ②講義で学んだトピックスについて、自分の行動や日常生活の事象と結び付けて考えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス、心理学とは何か
 第2回：知覚・感覚の心理学
 第3回：記憶の心理学
 第4回：学習の心理学
 第5回：情動の心理学
 第6回：適応の心理学
 第7回：性格の心理学
 第8回：発達の心理学

【授業外学修】

- (1) 講義資料はTeamsに事前にアップロードしておくので、必ず授業前に目を通しておき、分からない用語などがあればあらかじめ調べておくこと。
- (2) 授業後、新たに疑問に感じたことなどは、テキストや学術論文等を基に調べておくことが望ましい。
- (3) 各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- 第1回～第8回：（小課題）により自身の身の回りの出来事をからめながら授業の振り返りを行う。
 第2回・第3回・第7回：（実験のデモンストレーション）により心理実験を実際に体験する。
 第4回：（クイズ形式授業）により一部の授業内容をクイズ形式にて問う。

履修上の注意/Notes

- ・30分以上遅刻した場合は欠席として取り扱います。
- ・通信環境の問題により講義を受講できなかった場合は、できる限り当日中にメールあるいはTeamsのチャット機能により連絡すること。その場合、個別の課題を提出することで出席とみなします。
- ・個別の質問等は授業中および終了後に受け付けます。

情報端末の活用

- ・講義資料はTeamsにて事前配信するので、必要に応じて授業開始前にプリントアウトしておくこと。
- ・小課題についてはmanabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 心理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業時に毎回、小課題を実施する(全8回)。評価における比率は小課題(100%)とする。第8回目のテストは実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書；特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7825	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	加藤 篤志				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

コミュニケーションと現代社会

授業の概要/Course Overview

メディアの変動に代表されるようなさまざまな特徴を持った現代社会における、人と人とのコミュニケーションや人間関係の変動を中心に取り上げる。こうした問題については、しばしば漠然とした印象論や先入観に基づいた議論がなされがちだが、それらにとらわれることなくそうした諸問題を考察・検討するために、ここでは主に社会学の方法論を用いることになる。特に、国際化・情報化に代表される「近代化」との関連を重視する。

キーワード/Keyword(s)

コミュニケーション 対人関係 近代化 社会学 情報化

到達目標/Learning Objectives

- ・コミュニケーションや対人関係の問題に対する社会的な見方の基礎を身につける。
- ・現代社会におけるコミュニケーションや対人関係に関する諸現象を、単純な印象論や先入観にとらわれることなく理解し、考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、「コミュニケーション」という概念について

【授業外学修】授業内容をもとに課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】社会学で見るコミュニケーション

【授業外学修】配布資料などをもとに、ここまでの授業内容を確認し、次回以降の授業に備えておく。

【授業内容】現代社会とはどのような社会か

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】メディアの変動をどう考えるか：「すべてはメディアのせい」なのか？

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】現代社会における対人関係

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】データから見る現代のコミュニケーション

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】今後のコミュニケーションの展望

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】まとめ・補足説明

【授業外学修】これまでの授業内容を確認し、最終レポートに備える。

履修上の注意/Notes

単に講義内容を聞くだけではなく、それを手がかりにして「自ら考える」態度を身につけて欲しい。

授業の冒頭で資料・課題の配付や事務連絡等を行うので遅刻はしないこと。

情報端末の活用

- ・オンライン授業に際してはTeamsを用いる予定。
- ・授業期間中の課題については、Teamsの「課題」を通じて提出する
(学期末レポートを除く。これについては別途指示する予定)。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点から十分に考察し記述することができる。

A : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点から考察し記述することができる。

B : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点からある程度考察し記述することができる。

C : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点から最低限の水準までは考察し記述することができる。

D : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点から考察し記述することができていない。

成績の評価方法/Grading

学期末のレポート(88%)および授業中の課題(12%)。レポートについては授業内容を踏まえた上で、与えられた課題について各自の視点からの程度論理的に考察できるかを評価する予定。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書 ; 特になし
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	考える力が身につく社会学入門
著者名	浅野智彦他
出版社	中経出版
出版年	2010
ISBN	9784806134886
教材費	1429

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7826	ナンバリング	KB-HUM-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	田中 裕（TANAKA, Yutaka）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

身近な考古学

授業の概要/Course Overview

人類が現代に遺してきたすべての「もの」＝「文化遺産」を根拠として、歴史を解析する唯一の学問が考古学です。争いの種を減らすには、皆が事実を共有できることが大切です。文化遺産の正しい観察眼を養い、冷静な歴史認識力を得るために、茨城の身近な例を含め、今日に至る日本の文化遺産を概観します。

キーワード/Keyword(s)

文化遺産、文化財、通史、発掘、遺跡、日本考古学

到達目標/Learning Objectives

1.身近な文化遺産の大切さを理解できている。2.さまざまな歴史的資料が存在することを学び、より広い理解のための準備ができる。3.思い込みや曖昧な知識の多さに気づくことができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス 考古学の基礎知識と身近な文化遺産
- 2 正倉院の価値
- 3 「装い」の考古学
- 4 「食べもの」の考古学 1 和食の定義とその成立
- 5 「食べもの」の考古学 2 調理道具と配膳の歴史
- 6 「住まい」の考古学
- 7 「死ぬこと」の考古学
- 8 まとめ～考古学の目的と役割～（45分） 期末テスト(45分)

【授業外学修】

- (1) 第2回目から第7回目までの各授業ではグループディスカッションを行うため、間際の授業回に予告する内容で下調べを行うこと。
- (2) 授業に関係する書籍を必ず読むこと。
- (3) 各回の内容を復習すること。

【アクティブラーニング】

- (1) 第2回目から第7回目までの各授業の冒頭には、前の授業回に予告した内容によるグループディスカッションを行う。
- (2) また、各回の議論内容を指定用紙に記載して、議論内容を確認する。

履修上の注意/Notes

受講前に中学・高校日本史の教科書を復習しておいてください。素朴な疑問や基本的な質問を歓迎します。考古学を志す学生は、履修しておくことをお勧めします。遅刻・無断欠席は認めません。授業中、不定期に提出物を課すことがあります。オフィスアワー金曜昼休み。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

期末テスト：100%。ただし、授業中の提出物や反応の適切さにより加減することがあります。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：必要に応じてプリントを配付する 参考書：考古学ゼミナール 山川出版社 4,725円, 鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会 2,310円, 藤本強『考古学の方法』東京大学出版会 2,835円, 樋泉岳二ほか『食べ物の考古学』学生社2,380円, 安藤政雄ほか『住まいの考古学』学生社 2,380円
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

学芸員・文化財保護担当自治体職員及び埋蔵文化財調査機関の勤務経験に基づき、文化財保護の考え方と、考古学の思考法・知識・スキルについて講義する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7827	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	荒川 智（ARAKAWA Satoshi）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

障害者の歴史と現代

授業の概要/Course Overview

障害者が社会的にどのように処遇されてきたか歴史的な変遷を追い、現代における障害者の人権について考察する。

キーワード/Keyword(s)

慈善と迫害、優生思想・優生政策、戦争と障害者、ノーマライゼーション、障害者権利条約

到達目標/Learning Objectives

障害者が歴史的にどのような扱いを受けてきたか、おおよその流れを理解し、現代社会における障害者の人権保障のあり方について考察できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス。原始、古代、中世の障害者
- 第2回：近代社会と優生思想
- 第3回：近代日本の知的障害者の福祉、教育
- 第4回：太平洋戦争と障害者
- 第5回：ナチス・ドイツの障害者政策
- 第6回：戦後の障害者福祉の展開
- 第7回：ノーマライゼーションの思想と政策
- 第8回：障害者権利条約の障害しゃん歩人権

【授業外学修】

- (1) 講義資料はmanabaや授業のチームにアップしておくので、授業の各回の該当箇所を目を通すこと。
- (2) 空欄部分に何が入るか、考えておくこと。

履修上の注意/Notes

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。

情報端末の活用

オンライン授業なので、PCを使用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 障害者の歴史について基本的な知識を十分に修得し、障害者の人権について自分の考えを明確に述べられる。
- A : 障害者の歴史について基本的な知識を修得し、障害者の人権について自分の考えを述べられる。
- B : 障害者の歴史について基本的な知識を概ね修得し、障害者の人権について自分の考えを述べられる。
- C : 障害者の歴史について基本的な知識を最低限修得し、障害者の人権について自分の考えをある程度述べられる。
- D : 障害者の歴史について基本的な知識を修得しておらず、障害者の人権について自分の考えを述べられない。

成績の評価方法/Grading

レポート100%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7828	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	石井 宏典				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

人間理解を目指す心理学の導入講義です。人はみな、それぞれに個性豊かな「わたし」を生きています。では、この「わたし」はどのようにして育まれてきたのでしょうか。「わたし」が形成される過程に焦点をあて、その過程において身近な相手や周囲の環境がどのように影響を及ぼしているのかについて考えます。それは、わたしたちがいかに社会によって方向づけられているのかを自覚する作業でもあります。なお、これまで心理学が築いてきた人間を理解するための方法論についてもふれます。

キーワード/Keyword(s)

心理学、人格（パーソナリティ）、関係、社会、状況の力、社会化

到達目標/Learning Objectives

- 1) 人格（パーソナリティ）が周囲との関係のなかで形成されるという視点を理解できる。
- 2) 人間心理と社会との相互関係について考察する姿勢を身につける。
- 3) 心理学の認識スタイルの特色について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1) シラバスを用いたガイダンス、人間理解と心理学
- 2) 「わたし」へのまなざし
- 3) 個人の内発的な力／状況の力
- 4) 「わたし」が形成される過程：モデリングと鏡に映った自己
- 5) 人格（パーソナリティ）の理論・とらえ方
- 6) 心理学の認識論：「心」を測定する、関係のなかの「心」
- 7) 社会による方向づけ（社会化）と人格形成
- 8) まとめ：人格と社会の相互関係

【授業外学修】

- 1) 授業後に授業ノートおよび配付資料をもう一度精読する。適宜、関連の辞典などにあたる。
- 2) 授業内容を咀嚼しながら自分が考えたことを整理し、書き出しておく。
- 3) 第3回、6回の授業後には、小レポート課題に取り組む。

履修上の注意/Notes

①毎回授業の内容を復習し、指示された課題をかならず提出すること。②15分以上の遅刻は欠席扱いとなるので注意すること。③小レポートは、授業のなかでいくつか紹介する。

情報端末の活用

PCを用意すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：授業で扱った知見と考え方を深く理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会についての考察を発展させることができる。
- A：授業で扱った知見と考え方を理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
- B：授業で扱った知見と考え方を概ね理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
- C：授業で扱った知見と考え方についてある程度理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
- D：授業で扱った知見と考え方が理解できておらず、それらをふまえた人間心理と現代社会についての考察が困難である。

成績の評価方法/Grading

授業への取り組み（小レポート提出を中心とする）と最終レポートの内容（4：6）をもとに評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	指定なし。配付資料を用いる。
----	----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いんとろだくしょん社会心理学
著者名	細江達郎ほか
出版社	新曜社
出版年	1990
ISBN	4788503689
教材費	2200

参考書2

書名	心理学研究法入門
著者名	南風原朝和ほか
出版社	東京大学出版会
出版年	2001
ISBN	4130120352
教材費	2800

参考書3

書名	「私」とは何か
著者名	浜田寿美男
出版社	講談社
出版年	1999
ISBN	4062581701
教材費	1800

参考書4

書名	社会心理学・再入門：ブレークスルーを生んだ12の研究
著者名	ジョアンヌ・R・スミス, S・アレクサンダー・ハスラム 編
出版社	新曜社
出版年	2017
ISBN	9784788515390
教材費	2900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0781	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T (フレックス)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	歴史・考古学				
担当教員 (ローマ字表記)	添田 仁 (Soeda Hitoshi)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

外国人が見た江戸時代

授業の概要/Course Overview

江戸時代に生きた人びとは、西洋文化と出会い、近代化 (西洋化) の途をたどるなかで、何を失い、何を得たのか。江戸時代の日本を見た外国人の目を通して、当時の日本社会とその文化の様相を復元するとともに、近代化の過程における日本人の異文化理解の変遷とその特質について、歴史的な観点から論じる。

キーワード/Keyword(s)

日本史 江戸時代 風俗 異文化理解 史料批判 客観性 相対化

到達目標/Learning Objectives

- 1) 中学・高校で学んできた「日本史」と大学で学ぶ「歴史学」の違いを理解できる。
- 2) 過去に書かれた記録から、その時代の人びとの発想や情景を読み取ることができる。
- 3) 日本の歴史や文化の特質を、世界的かつ客観的な視点から理解することができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1) 導入 シラバスを用いたガイダンス / 「日本史」と「歴史学」の違い
- 2) 失われた日本の風景
- 3) 日本人の容姿
- 4) 礼儀正しくて下品
- 5) 裸体と性 - ヤマトナデシコの性事情 -
- 6) 開かれた売買春
- 7) 勤勉となまけ者
- 8) まとめ - 異文化を理解すること -

【授業外学修】

- (1) 高校の歴史教科書を持っている者は、明治維新期の部分にあらかじめ目を通しておくとよい。
- (2) 講義資料は授業の中で配布するので、授業前に読んで、分からない用語などはあらかじめ調べておくことが望ましい。

【アクティブラーニング】

ミニツツペーパー。毎回授業終了前後に「小テスト」を行い、その日の授業の理解度を確認するとともに、授業に対する意見や質問を収集する。次回授業の冒頭で、一部を紹介して、授業に対する理解を深め、共有する。

履修上の注意/Notes

初回の授業に必ず出席すること（ガイダンスでの説明は繰り返さない）。資料はレジюме（PDF）を配布し、その内容を説明しながら授業を行う。また、毎回授業の最後に「小テスト」（授業の内容に関わる問いへの回答、授業に対する感想や意見）を課し、その内容を次回の授業冒頭で紹介して、課題や関心を受講者の間で共有しながら進める。なお、授業開始後20分までの入室しか認めない。それ以降にアクセスした場合は欠席とみなす。オフィスアワーは火曜日6限。

情報端末の活用

講義資料はTeams等で事前配信するので、毎回の授業時にはPCを用意すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：前近代の異文化理解についての基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は行わない。毎回授業終了前後に課す「小テスト」への回答及び授業に対する意見や質問の内容（評価比率100%）で評価する。「小テスト」は、到達目標1）～3）の理解度を評価の主要な観点とする。授業を欠席すると当日の「小テスト」を受験できなくなり、その分が減点になるので注意すること。なお、授業を3回以上欠席した場合（遅刻による欠席も含む）は、採点の対象外となる。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：とくになし。随時レジюмеを配布する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	逝きし世の面影
著者名	渡辺京二
出版社	平凡社
出版年	2005
ISBN	978-4582765526
教材費	1900

参考書2

書名	欧米人の見た開国期日本
著者名	石川榮吉
出版社	風響社
出版年	2008
ISBN	978-4894891210
教材費	2500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7841	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	富澤 萌未（Tomizawa Moemi）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

平安文学作品における子どもたち

授業の概要/Course Overview

平安時代の文学作品に登場する子どもが現れる場面を丁寧に読んでいく。
そのための基礎知識、調査・研究方法についても学ぶ。

キーワード/Keyword(s)

日本古典文学・平安時代・物語・枕草子

到達目標/Learning Objectives

- ①日本古典文学に関する基礎知識を習得することができる。
- ②日本古典文学に親しみ自分なりに鑑賞することができる。
- ③日本古典文学に対する自分の考えを文章にまとめることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、「子ども」とは
第2回：【授業内容】遊ぶ子ども①（枕草子）
第3回：【授業内容】遊ぶ子ども②（うつほ物語・源氏物語）
第4回：【授業内容】遊ぶ子ども③（堤中納言物語）
第5回：【授業内容】抱かれる子ども①（落窪物語・枕草子・）
第6回：【授業内容】抱かれる子ども②（うつほ物語）
第7回：【授業内容】抱かれる子ども③（うつほ物語）
第8回：【授業内容】抱かれる子ども④（源氏物語）

【授業外学修】各回の授業外学修の方法（予習：30分 復習：60分以上）

予習：授業で扱う作品のあらすじを参考書などでつかんでおく。

高等学校で習得した古典文法、古典単語、古文常識、古典文学史を復習しておく。

復習：授業で配った資料を読み直し、調査して自分なりの考えをまとめておく（リアクションペーパーを次の授業で提出する）。授業で扱った作品は、授業では触れなかった場面も目を通しておく。

【アクティブ・ラーニング】

1～8回の授業でリアクションペーパー（調査・まとめ）の提出を求める。

【小レポート】

授業全体で学んだことをまとめ、自分の意見を述べる。

履修上の注意/Notes

・ 3分の2以上の出席を前提とする（遅刻・早退をした場合は2回で欠席とする）。

情報端末の活用

8回目でアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等を持参すること。
リアクションペーパー、小レポートについては、Teamsを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本古典文学に関する基礎知識を十分に習得し、自分の考えを極めて高いレベルで文章にまとめることができる。
A：日本古典文学に関する基礎知識を習得し、調査したことや自分の考えを高いレベル以上で文章にまとめることができる。
B：日本古典文学に関する基礎知識を概ね習得し、調査したことや自分の考えを概ね文章にまとめることができる。
C：日本古典文学に関する基礎知識を最低限習得し、調査したことや自分の考えを最低限文章にまとめることができる。
D：日本古典文学に関する基礎知識を概ね習得しておらず、調査したことや自分の考えを文章にまとめることができない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパー：50%（リアクションペーパーについては【授業及び授業外学修】参照） 小レポート：50%（授業で学んだ古典文学を読むための基礎知識、調査・研究方法が身についているか確認する）

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	千年の百冊 = 100 books for 1000 years : あらすじと現代語訳でよむ日本の古典100冊スーパーガイド
著者名	鈴木健一 編
出版社	小学館
出版年	2013
ISBN	9784093882767
教材費	2800

参考書2

書名	うつほ物語：子ども流離譚
著者名	富澤萌未著
出版社	翰林書房
出版年	2021
ISBN	9784877374570
教材費	6800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7842	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	李 満紅				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

日本古代文学への招待－日本の神話伝説を読む－

授業の概要/Course Overview

古代日本の神話伝説を読み解くことを通して、日本古代文学の基礎的知識を身に付け、また「日本文化」の本質を理解することを目標とする。奈良時代に成立した史書としての『古事記』や地誌である「風土記」の神話伝説をとりあげ、「日本」における文学史、「日本人」の精神史の一斑を見届ける。

キーワード/Keyword(s)

古代、神話伝説、『古事記』、「風土記」

到達目標/Learning Objectives

- ・『古事記』『風土記』についてそれぞれの特質について説明できるようになる。
- ・「日本」における文学の発生期について説明できるようになる。
- ・日本古代文学の特質について説明できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) シラバスを使用したガイダンス「日本古代文学への招待－日本の神話伝説を読む」
- (2) 『古事記』の神話
～スサノヲのヲロチ退治～
- (3) 『古事記』の神話
～穀物起源神話～
- (4) 『古事記』の神話
～コノハナノサクヤビメ～
- (5) 「風土記」の神話伝説
～『常陸国風土記』の「くれふし山伝承」～
- (6) 「風土記」の神話伝説
～『常陸国風土記』の「夜刀神の伝承」～
- (7) 「風土記」の神話伝説
～『出雲国風土記』の「国引き神話」～
- (8) 総括
～授業全体の総括（45分）／各自のミニレポート作成（45分）～

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

予習：事前に講義資料に目を通し、各回授業概要を把握しておく。

復習：授業内容を復習し、次回の授業までに不明な点がないか確認しておく。不明な点については自ら調べ、その上で、必要に応じて担当教員に問い合わせる。

【アクティブ・ラーニング手法】

・第2回～第7回の授業でミニツツペーパーの提出を求める。

履修上の注意/Notes

- ・新型コロナウイルス感染症対応の活動基準に応じ、授業計画や成績評価方法等を変更する場合がある。
- ・遅刻は3回で欠席1回とカウントする。

情報端末の活用

授業内はPCを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本古代文学の特質を十分に理解し、自らの言葉で説明できている。さらに新たな視点、問題意識をもって、研究を進めようとする態度が認められる。

A：日本古代文学の特質を理解し、自らの言葉で説明できている。

B：日本古代文学の特質を概ね理解していることが認められる。

C：日本古代文学に関する基本的な知識を習得していることが認められる。

D：日本古代文学に関する基本的な知識を習得できていない。

成績の評価方法/Grading

①各回授業でのミニツツペーパー：50%

②総括時のミニレポート：50%

③8回目後半の期末試験は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。授業内で関連資料を配付する。
----	--------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	神話で読みとく古代日本：古事記・日本書紀・風土記
著者名	松本直樹著
出版社	筑摩書房
出版年	2016
ISBN	9784480068958
教材費	968

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7843	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	伊丹 一浩				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

農をめぐる人間と自然との関係史

授業の概要/Course Overview

1.歴史学の意義に関する基本事項の解説。2.農耕の開始と文明発展へのインパクトの解説。3.中世ヨーロッパにおける自然・農業に関する基本事項の解説。4.産業革命期イギリス都市と農業における物質循環に関する基本事項の解説。5.フランスを題材にした農業、地域資源、水害対策における自然と人間の関係に関する基本事項の解説。6.農をめぐる人間と自然との関係の通史的解説と展望に関する説明。7.トラクターと肥料の歴史を題材にした自然と人間の関係に関する基本事項の解説。

キーワード/Keyword(s)

農業、人間、自然、歴史、文明、都市化、物質循環、地域資源、森林、牧野、トラクター、肥料

到達目標/Learning Objectives

1.歴史学の意義が理解できる。2.農耕の開始と文明発展へのインパクトが理解できる。3.中世ヨーロッパにおける自然・農業が理解できる。4.産業革命期イギリス都市と農業における物質循環が理解できる。5.フランスを題材にした農業、地域資源、水害対策における自然と人間の関係が理解できる。6.トラクターと肥料の歴史を題材にした自然と人間の関係が理解できる。7.農をめぐる人間と自然との関係を通史的に理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.シラバスを用いたガイダンスと導入：歴史学の意義について
- 2.農耕の開始と文明発展へのインパクト
- 3.中世ヨーロッパにおける自然・農業
- 4.産業革命期イギリス都市と農業における物質循環
- 5.フランスにおける地域資源管理
- 6.フランスにおける森林・牧野の荒廃と水害対策
- 7.トラクターと肥料の歴史
- 8.農をめぐる人間と自然との関係の通史的解説と展望

【授業外学習】

- 1.概要：授業においてノートができる限り詳しくとるようにし、配付資料や参考書とあわせて、丹念に読み返して、十全な復習を行うとともに、その内容の完全な理解をもって次回授業の予習とすること。なお、各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。
- 2.予習のポイント：次回授業の概要を事前に伝えるようにするので、参考書などで、関連しそうな用語や事柄について調べるなどしておくこと。なお、予習においては、内容を完全に理解する必要はない。わからないことがあってもがっかりすることなく、まずは、とりあえず、目を通すようにすることが重要である。

3.復習のポイント：授業時に詳しくとったノートの復習が中心となる。授業終了後、できるだけ速やかにノートを見返すことが望ましい。うまく消化しきれていない点があれば、配付資料や参考書を、今一度、読み返したり、メール等を利用して、教員に質問をするのがよい。実際、毎年、授業後に質問をする学生さんやメールで質問をする学生さんが、少なからず存在する。皆さんの勉強のお手伝いをするべく、教員の方でもできるだけ対応したいと考えている。

履修上の注意/Notes

オフィス・アワー：木曜日11:50～12:40。遅刻は原則認めない。30分以上遅刻した場合は欠席扱いとする。

情報端末の活用

オンライン授業で実施する場合にはPCは必須である。対面授業であっても、出席やフォームズ機能を利用した質疑応答、ディスカッションにおいてPCを利用する予定である。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：農をめぐる人間と自然との関係史の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：農をめぐる人間と自然との関係史の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：農をめぐる人間と自然との関係史の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：農をめぐる人間と自然との関係史の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：農をめぐる人間と自然との関係史の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

対面授業の場合：期末試験で評価する予定である（100%）。
オンライン授業の場合：課題（2回のレポート）で評価する予定である（100%）。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	環境・農業・食の歴史
著者名	伊丹一浩
出版社	御茶の水書房
出版年	2012
ISBN	9784275009661
教材費	2200

参考書2

書名	堤防・灌漑組合と参加の強制：19世紀フランス・オート＝ザルプ県を中心に
著者名	伊丹一浩著
出版社	御茶の水書房
出版年	2011

ISBN	9784275009166
教材費	5600

参考書3

書名	山岳地の植林と牧野の具体性剥奪：19世紀から20世紀初頭のフランス・オート＝ザルプ県を中心に
著者名	伊丹一浩
出版社	御茶の水書房
出版年	2020
ISBN	9784275021335
教材費	7200

参考書4

書名	戦争と農業
著者名	藤原辰史著
出版社	集英社インターナショナル
出版年	2017
ISBN	9784797680157
教材費	715

参考書5

書名	トラクターの世界史
著者名	藤原辰史
出版社	中公新書
出版年	2017
ISBN	9784121024510
教材費	946

参考書6

書名	ウンコはどこから来て、どこへ行くのか：人糞地理学ことはじめ
著者名	湯澤規子 著
出版社	筑摩書房
出版年	2020
ISBN	9784480073303
教材費	840

参考書7

書名	胃袋の近代
著者名	湯澤規子
出版社	名古屋大学出版会
出版年	2018
ISBN	9784815809164.0
教材費	3600

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7851	ナンバリング	KB-HUM-111-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	櫻井 豪人				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

変体仮名を読む

授業の概要/Course Overview

変体仮名とは明治中期まで用いられていた平仮名のことであり、国語史研究や国文学研究を行う者にとって変体仮名の判読能力は必須であるが、そうでない者にとっても、「きそば」「うなぎ」の看板から美術館・博物館の展示資料まで、日常生活の中で変体仮名に接することがある。本講義では、特に江戸期の変体仮名や主な漢字のくずし字が読めるようになることを第一目標に掲げ、様々な資料を題材として判読の訓練を行う。

キーワード/Keyword(s)

変体仮名・くずし字・判読・日本古典文学・国語学・平仮名

到達目標/Learning Objectives

- ① 主な変体仮名の字源と頻出する漢字のくずし字を覚え、文字そのものが読み取れるようになる。
- ② 実際の文章にふれて判読のコツをつかみ、文意が把握できるようになる。
- ③ 江戸期の変体仮名で書かれた簡単な仮名文学作品について、何も見なくとも解読できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

※補講を1回行うので、計9回の授業となる。

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス・現行の平仮名の字源

【授業外学修】授業で習った現行の平仮名の字源を覚えてくること。

第2回：【授業内容】古活字版『伊曾保物語』の判読 その1

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこ

と。

第3回：【授業内容】古活字版『伊曾保物語』の判読 その2

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこ

と。

第4回：【授業内容】古活字版『伊曾保物語』の判読 その3

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこ

と。

第5回：【授業内容】御伽草子『一寸法師』の判読 その1

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこ

と。

第6回：【授業内容】御伽草子『一寸法師』の判読 その2

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこ

第7回：【授業内容】御伽草子『一寸法師』の判読 その3

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第8回：【授業内容】御伽草子『一寸法師』の判読 その4

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第9回：【授業内容】質問受付および解説（15分）・試験（75分）

履修上の注意/Notes

補講を1回行うことについて、あらかじめ承知しておくこと。また、授業時間外の予習・復習を怠ったり、授業に欠席したりすると、十分な判読能力が身につかず、試験に合格できない可能性が高くなるので注意すること。（この授業は、授業時間外で十分な予習・復習をしなければ単位を修得することができない。）質問は講義終了後に適宜受け付ける。わからないことは何でも積極的に質問することを推奨する。遅刻は認めない。

情報端末の活用

講義資料はTeamsで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。ただし、それ以外にノートと筆記具も持参すること。鉛筆のほか、赤・青・緑等の色ペンまたは色鉛筆が必要である。講義資料は事前に印刷しておき、それを持参して授業に臨む方が授業を受けやすい。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末試験100%。（評価の観点には到達目標の①②③。）期末試験は江戸期の喃本等の影印から出題し、翻字を課すとともに、一部の仮名について字源を問う。

教科書/Textbook(s)

備考	プリントを配布する。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	江戸のかな
著者名	樋口政則
出版社	名著出版
出版年	1991
ISBN	
教材費	3000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7852	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP,COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 聡				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

子どもと若者をめぐる文化

授業の概要/Course Overview

今回扱うテーマは、子どもと若者についてである。現代の日本社会は子どもや若者に甘いといわれる。戦後においてしつけが十分に行われなくなったためだという人もいる。果たして本当にそうなのだろうか。本講義では、前近代社会において、子どもと若者が、社会においていかなる存在と見なされていたのか、教育やしつけなどはどのように行われていたのかを考えたい。

キーワード/Keyword(s)

童子、子ども、少年愛、間引き、青年、青春、若衆、若者組、かぶき者

到達目標/Learning Objectives

日本人の過去の精神文化についての知見を広げることを通じ、現代に生きる我々の考え方というものが歴史的文脈にあることを理解し、それをどのように継承、或いは変革していくかを自分なりに考えることができるようにする。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 1、シラバスを用いたガイダンスー子どもをかわいがる文化
- 2、子どもと死

授業前：アップされた配布資料を事前に読み込んでおく。授業後：アンケート提出（翌週に回答・解説）

- 3、境界人としての子ども

授業前：アップされた配布資料を事前に読み込んでおく。授業後：アンケート提出（翌週に回答・解説）

- 4、聖童子の系譜

授業前：アップされた配布資料を事前に読み込んでおく。授業後：アンケート提出（翌週に回答・解説）

- 5、若者と青春

授業前：アップされた配布資料を事前に読み込んでおく。授業後：アンケート提出（翌週に回答・解説）

- 6、若者組の世界

授業前：アップされた配布資料を事前に読み込んでおく。授業後：アンケート提出（翌週に回答・解説）

- 7、かぶき者の系譜

授業前：アップされた配布資料を事前に読み込んでおく。授業後：アンケート提出（翌週に回答・解説）

- 8、まとめと補足

【授業外学修】

講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

履修上の注意/Notes

- ・ 日本文化、前近代の歴史・文化に関心があることが望ましい。
- ・ 遅刻は原則として認めない。

情報端末の活用

毎回の講義資料は教務情報ポータルで配信する。
毎回のアンケートも教務情報ポータルに提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 授業内容を十分に理解した上で、独自の調査・研究により、優れたオリジナルな成果を上げている。
A : 授業内容を十分に理解した上で、独自の調査・研究により、優れた成果を上げている。
B : 授業内容を学修理解した上で、ある程度の成果を上げている。
C : 授業内容についての理解は十分ではないが、自分の学修等により、ある程度の成果を上げている。
D : 授業内容をほとんど理解しておらず、一定の学修成果も認められない。

成績の評価方法/Grading

レポート(70%)とアンケートの内容(30%)により成績を評価する。レポートの内容は授業中に指示する。
レポートは到達目標による。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：なし（レジメを配布する）。
----	-------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	子どもの中世
著者名	齊藤研一
出版社	吉川弘文館
出版年	2012
ISBN	
教材費	2530

参考書2

書名	出産と生殖の近世
著者名	沢山 美果子
出版社	勁草書房
出版年	1998
ISBN	
教材費	3850

参考書3

書名	日本人のしつけは衰退したか
----	---------------

著者名	広田 照幸
出版社	講談社
出版年	1999
ISBN	
教材費	924

参考書4

書名	逝きし世の面影
著者名	渡辺京二
出版社	平凡社
出版年	2005
ISBN	
教材費	2090

参考書5

書名	〈子供〉の誕生—アンシャン・レジーム期の子供と家族生活
著者名	フィリップ・アリエス
出版社	みすず書房
出版年	1980
ISBN	
教材費	6380

参考書6

書名	武士道とエロス
著者名	氏家幹人
出版社	講談社
出版年	1995
ISBN	
教材費	946

参考書7

書名	族の系譜学—ユース・サブカルチャーの戦後史
著者名	難波功士
出版社	青弓社
出版年	2007
ISBN	
教材費	2860

参考書8

書名	サムライとヤクザ
著者名	氏家幹人
出版社	筑摩書房

出版年	2013
ISBN	
教材費	

参考書9

書名	江戸の子育て
著者名	中江和恵
出版社	文藝春秋社
出版年	2003
ISBN	
教材費	

参考書10

書名	若者と娘をめぐる民俗
著者名	瀬川清子
出版社	未来社
出版年	1972
ISBN	
教材費	

参考書11

書名	華文字の死想—日本における少年愛の精神史
著者名	松田修
出版社	ペヨトル書房
出版年	1988
ISBN	
教材費	

参考書12

書名	江戸わかもの考
著者名	野口武彦
出版社	三省堂
出版年	1986
ISBN	
教材費	

参考書13

書名	子宝と子返し—近世農村の家族生活と子育て
著者名	太田素子
出版社	藤原書店
出版年	2007
ISBN	

教材費	
-----	--

参考書14

書名	江戸の少年
著者名	氏家幹人
出版社	平凡社
出版年	1994
ISBN	
教材費	1320

参考書15

書名	児やらい—産育の民俗
著者名	大藤ゆき
出版社	岩崎美術社
出版年	1967
ISBN	
教材費	

参考書16

書名	間引と水子—子育てのフォークロア
著者名	千葉徳爾・大津忠男
出版社	農山漁村文化協会
出版年	1983
ISBN	
教材費	

参考書17

書名	翁童信仰
著者名	鎌田東二（編）
出版社	雄山閣出版
出版年	1993
ISBN	
教材費	

参考書18

書名	〔絵巻〕子どもの登場—中世社会の子ども像
著者名	黒田日出男
出版社	河出書房新社
出版年	1989
ISBN	
教材費	

参考書19

書名	「かぶき」の時代—近世初期風俗画の世界
著者名	守屋毅
出版社	角川書店
出版年	1976
ISBN	
教材費	

参考書20

書名	〈民俗の知〉の系譜
著者名	川村邦光
出版社	昭和堂
出版年	2000
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input checked="" type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7853	ナンバリング	KB-HUM-111-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	谷口 基（MOTOI TANIGUCHI）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

近代日本小説の実験性 I

授業の概要/Course Overview

明治期から昭和期までを視野におさめ、日本の近代小説における実験的な試みについて解説します。作品分析のみならず、背景となった時代や社会との関連性についても触れ、受講者が文化と人間との有機的な関係に思いをめぐらせつつ、各々の世界観を広げることができるようなかたちで文学作品に親しむことができるような手引きとなるようにつとめます。

キーワード/Keyword(s)

小説 神話 民間伝承 深層心理 ミステリ ナラトロジー

到達目標/Learning Objectives

文学作品の鑑賞を通じて、微妙な心理のゆらぎを注視する感性と理解力を養い、背景となる社会・歴史の実相に思いをめぐらせるとともに、想像力と文化の重要性について深く考察することができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1、【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。授業内容や評価方法の説明などを行う。
- 2、【授業内容】「自己」を幻視する／文学テーマとしての「自己像幻視」の例について解説。ミニツツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全3回
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。
- 3、【授業内容】「夢」を描く／夢の文法化について。ミニツツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全3回
- 4、まとめ
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。

履修上の注意/Notes

2021年度開講の「近代日本文学の実験性 I」だけをすでに受講された方は、この授業を履修することはできません。受講しても単位が認定されないの、注意してください。第2クォーター開講予定の「近代日本文学の実験性 II」であれば、授業内容が異なっているので受講可能です。単位も認定されます。

以下の文言は、リモート授業として開講された場合には適用しないケースも記されていますが、ご了承ください。

受講希望者が多数になる場合があります。受講者制限はしませんが受講時、さらには入退室のマナーを十分に心がけてください。20分以上の遅刻は欠席扱いとしますので、注意してください。オフィスアワーは木曜日の昼休みです。

情報端末の活用

原則としてオンライン開講（リアルタイム配信型）といたしますので、PC等情報端末で受講するための環境を整えておいてください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

学期末に提出するレポート：100%

教科書/Textbook(s)

備考	「教科書：特になし。授業内で関連資料を配付する。」
----	---------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7854	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	佐藤 邦政（Kunimasa Satoh）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代認識論入門

授業の概要/Course Overview

認識論とは、「知っているとはどのようなことなのか」、「より良い知識の獲得方法とは何か」を探究する哲学分野である。近年、伝統的な個人中心の認識論が批判され、新たに知識獲得の社会的・政治的側面が議論されるようになってきている。その流れのなかで、個人についても、特定の社会の一員としての認識主体や主体同士の対人関係が焦点にあてられ、それに伴って知識獲得の実践における倫理的問題も論じられるようになってきている。

本授業は、西洋哲学における認識主体について、古代から近代、そして、現代の認識論を概観しながら、知識とは何か、および、知識の価値とは何かに関する様々な問いを多角的に検討することを目的とする。具体的なテーマとして、知識の条件と認識主体、認識主体の社会的位置づけ、信念の倫理、有徳および悪徳な認識的行為者、認識的不正義、知識主体の形成について取り上げる。

キーワード/Keyword(s)

知識の古典的定義、ゲティア問題、徳信頼性主義、徳責任主義、証言の認識論、認識的責任、信念の倫理、認識的不正義

到達目標/Learning Objectives

本授業の到達目標は、学生が、認識論の時代背景と問題設定の基本を理解したうえで、知識や正当化についての問いを自分自身で考えていけるようになることである。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeamsを使用した同時双方向の授業で実施する。

- 1回 導入：認識論とは何か―懐疑論的論証を通じて―
- 2回 知識の基本条件、知識の価値
- 3回 ゲティア問題
- 4回 正当化についての基礎づけ主義と整合主義
- 5回 内在主義と外在主義：プロセス信頼性主義
- 6回 徳信頼性主義
- 7回 徳責任主義と信念の倫理
- 8回 証言の認識論と認識的不正義

【授業外学修】

事前学修としては、毎回の授業で教科書指定の文献の該当箇所を示すので、次回の講義に臨む前に読んでおく。（毎回20分以上）事後学修としては、毎講義で配布される資料を読みなおし、基本的な概念や考え方を整理し、自分の考えを進めてみる。（毎回70分以上）

最終レポート課題は、講義の中で扱われる主題から好きなものを選び、みずからテーマを設定し、自分の考えを説得的に述べることである。その準備のため、講義中に示した話題をもとに、みずからの考えをまとめる。（6時間以上）

事前・事後学修のために、Eメールでの質問など受け付けます。簡単に思える疑問でも、その疑問を深めることで従来の学説に見られない重要な論点の発見につながる場合があります。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第2回以降については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、あるいは、発表を行う。
- (2) 毎回の授業終了時は、ミニペーパーによる課題を課し、学生一人一人が批判的思考を発揮できるようにする。

履修上の注意/Notes

遅刻は、15分以内まで入室を許可し、それ以後は認めない。

哲学は対話が大事であるため、講義者を含めて誰かが発言をしているときには、とくに私語は厳禁とする。

情報端末の活用

課題レポートについては、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：現代認識論の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに関連する問いについて自分で独自に考えることができる。

A：現代認識論の基本的な知識と考え方を修得し、さらに関連する問いについて自分で明確に考えることができる。

B：現代認識論の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに関連する問いについて自分で明確に考えることができる。

C：現代認識論の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらに関連する問いについて自分である程度、考えることができる。

D：現代認識論の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに関連する問いについて自分でまとまった考えを持つことができていない。

成績の評価方法/Grading

本講義の評価は次の三つの要素から成る。

- (1) 毎授業時の提出物としての小レポート提出
- (2) 1200～1600字程度の最終レポート
- (3) 授業中の討論などへの参加度

成績評価の配分は、小レポートが30%、最終レポートが40%、参加度30%となる。

最終試験はない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書なし。PDFファイルを配布する。
----	---------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	善い学びとはなにか：「問いほぐし」と「知の正義」の教育哲学
著者名	佐藤邦政
出版社	新曜社
出版年	2019
ISBN	9784788516489
教材費	2400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7855	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子, 未定				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本語を考える（日本語文法）

授業の概要/Course Overview

1. 日本語教育文法について学び、外国語としての日本語の特徴を考察する。
2. 日本語と日本社会・日本文化との関連性を考察する。

キーワード/Keyword(s)

日本語, 日本語教育, 日本語教育文法, 社会言語学, 外国語としての日本語

到達目標/Learning Objectives

1. 日本語という言葉がどのような特徴を持っているかを理解できる。
2. 日本語に関する考察を通して日本社会・文化への理解を深めることができる。
3. 日本語教育の観点から日本語を客観的に捉えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 【授業内容】 ガイダンス、「日本語文法」と「国語文法」（『日本人のための日本語文法入門』第1章）（池田）
【授業外学修】 教科書の該当箇所を読んで復習する
- 第2回 【授業内容】 格助詞（第2章）（池田）
【授業外学修】 教科書の該当箇所を読んで復習する
- 第3回 【授業内容】 自動詞と他動詞（第3章）（池田）
【授業外学修】 教科書の該当箇所を読んで復習する。確認テストのために今までの配布プリント及び教科書で学習する。
- 第4回 【授業内容】 ボイス(第4章) 確認クイズ①（池田）
【授業外学修】 教科書の該当箇所を読んで復習する
- 第5回 【授業内容】 アスペクト(第5章)（未定）
【授業外学修】 教科書の該当箇所を読んで復習する
- 第6回 【授業内容】 テンス（第6章）（未定）
【授業外学修】 教科書の該当箇所を読んで復習する
- 第7回 【授業内容】 ムード（第7章）（未定）
【授業外学修】 教科書の該当箇所を読んで復習する。確認テストのために今までの配布プリント及び教科書で学習する。
- 第8回 【授業内容】 複文(第8章)、授業の総括)45分、確認クイズ②（未定）

【アクティブラーニング】

- 全授業通して以下のアクティブラーニングを用いて、理解を深める。
（シンク・ペア・シェア）課題を個人、グループ、全体で考察し、考えを共有する。
（グループディスカッション）グループに分かれて、課題を考察する。

履修上の注意/Notes

- ・2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
- ・遅刻3回=欠席1回とする。開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・課題提出、自発的な発言や各授業後に課される振り返りの記述も授業参加度の評価の対象となる。

情報端末の活用

- ・毎回の授業時には PC を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識を十分に修得し、さらにその項目についての的確な説明ができています。
- A : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識を修得し、さらにその項目について説明ができています。
- B : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識を概ね修得し、概ねその項目について説明ができています。
- C : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識について最低限の修得をしており、その項目について最低限必要な説明ができています。
- D : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識が修得できておらず、その項目について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト:80%(2回) 授業貢献度:20%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	日本人のための日本語文法入門
著者名	原沢伊都夫著
出版社	講談社
出版年	2012
ISBN	9784062881739
教材費	740

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	

地域活性化志向	
---------	--

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7856	ナンバリング	KB-HUM-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	田中 裕（TANAKA, Yutaka）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

身近な考古学

授業の概要/Course Overview

人類が現代に遺してきたすべての「もの」＝「文化遺産」を根拠として、歴史を解析する唯一の学問が考古学です。争いの種を減らすには、皆が事実を共有できることが大切です。文化遺産の正しい観察眼を養い、冷静な歴史認識力を得るために、茨城の身近な例を含め、今日に至る日本の文化遺産を概観します。

キーワード/Keyword(s)

文化遺産、文化財、通史、発掘、遺跡、日本考古学

到達目標/Learning Objectives

1.身近な文化遺産の大切さを理解できている。2.さまざまな歴史的資料が存在することを学び、より広い理解のための準備ができる。3.思い込みや曖昧な知識の多さに気づくことができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス 考古学の基礎知識と身近な文化遺産
- 2 正倉院の価値
- 3 「装い」の考古学
- 4 「食べもの」の考古学 1 和食の定義とその成立
- 5 「食べもの」の考古学 2 調理道具と配膳の歴史
- 6 「住まい」の考古学
- 7 「死ぬこと」の考古学
- 8 まとめ～考古学の目的と役割～（45分） 期末テスト(45分)

【授業外学修】

- (1) 第2回目から第7回目までの各授業ではグループディスカッションを行うため、間際の授業回に予告する内容で下調べを行うこと。
- (2) 授業に関係する書籍を必ず読むこと。
- (3) 各回の内容を復習すること。

【アクティブラーニング】

- (1) 第2回目から第7回目までの各授業の冒頭には、前の授業回に予告した内容によるグループディスカッションを行う。
- (2) また、各回の議論内容を指定用紙に記載して、議論内容を確認する。

履修上の注意/Notes

受講前に中学・高校日本史の教科書を復習しておいてください。素朴な疑問や基本的な質問を歓迎します。考古学を志す学生は、履修しておくことをお勧めします。遅刻・無断欠席は認めません。授業中、不定期に提出物を課すことがあります。オフィスアワー金曜昼休み。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

期末テスト（100%）により評価します。ただし、提出物の内容により加点することがあります。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：必要に応じてプリントを配付する 参考書：考古学ゼミナール 山川出版社 4,725円, 鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会 2,310円, 藤本強『考古学の方法』東京大学出版会 2,835円, 樋泉岳二ほか『食べ物の考古学』学生社2,380円, 安藤政雄ほか『住まいの考古学』学生社 2,380円
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

学芸員・文化財保護担当自治体職員及び埋蔵文化財調査機関の勤務経験に基づき、文化財保護の考え方と、考古学の思考法・知識・スキルについて講義する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7858	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	瀧澤 利行（Takizawa Toshiyuki）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本の医療史

授業の概要/Course Overview

この授業はTeamsによる遠隔授業によって実施されます。Teamsのコードは以下のコードです。

コード名：vcpbctm

日本の医療は、中国大陸や朝鮮半島の医療文化の影響を受けながら、江戸時代以降に独自の発展を遂げてきた。明治維新前後からドイツ医学、第2次世界大戦以降はアメリカ医学の影響を受けながら、今日では平均寿命が世界でも最高水準の国になっている。そのような成果を出すことができた要因とそれにもかかわらず存在している日本の医療の課題について、医療の歴史のトピックスの中から考察する。

キーワード/Keyword(s)

日本の医療思想, 医学教育, 中国医学, ドイツ医学, アメリカ医学, 医療文化

到達目標/Learning Objectives

- 1)日本の江戸時代以降の医療の発展の特徴を説明することができる。
- 2)明治以降の日本の医学の近代化の影響が今日の医療システムに与えている影響を説明することができる。
- 3)日本社会にとっての望ましい医療のあり方について自分の意見を述べるすることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、江戸時代の医療とは何か ―

【授業内容】医学・医療・呪術の概説を行い、医学の歴史的発展段階を学ぶ必要性を理解し、日本の医療史を理解する上での江戸時代の医学の特徴を理解する。

【授業外学修】過去に履修した高等学校科目「日本史」における江戸時代の文化史について、確認しておくこと。

第2回：江戸時代の医療（動画による学習）

【授業内容】江戸時代の医療の実像を、前回授業で学んだ内容の中から江戸時代の医学において特徴的な史実に関わる動画を視聴し、それについて学習者が主体的に考える授業とする

【授業外学修】過去に履修した高等学校科目「日本史」における江戸時代の文化史について、確認しておくこと及び前回の授業内容のプリントによって医学の発展形式について確認しておくこと。

第3回：維新时期・明治前期の医療

【授業内容】近代日本の医学・医療の形成期としての維新时期・明治前期の医学と医療について概観し、漢方医学・オランダ医学からイギリス医学・ドイツ医学と変遷を遂げる過程で医療の実態がどのように変化したかを理解する。

【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって江戸時代の医学の概要について確認しておくこと、明治時代前期の西洋医学受容の背景を

インターネットなどを通じて各自知識を深めること。

第4回：維新时期・明治前期の医療

【授業内容】 明治維新以後の西洋化の流れの中での医学の急速な近代化の過程に関わる重要事項を映像を通して学ぶ。

【授業外学修】 前回の授業内容のプリントによって明治時代前期までの医学の概要について確認しておくこと、および明治維新の歴史的意義について各自で認識を深めること。

第5回：明治後期・大正期・昭和前期の医療

【授業内容】 西洋医学の影響のもとで日本医学が自立性を確立していくと同時に、医学が戦争遂行に協力していった側面があることをも理解し、近代医学の社会に対する両義性を考察する。

【授業外学修】 前回の授業内容のプリントによって明治時代後期までの医学の概要について確認しておくこと。

第6回：明治後期・大正・昭和前期と医療

【授業内容】 第1次・第2次世界大戦下の日本の医療の実相に関わる動画を視聴して、同時期の医療の社会に対する両義性を学習者が主体的に考察する。

【授業外学修】 前々前回前回の授業内容のプリントによって昭和前期までの医学の概要について確認しておくこと。

第7回：戦後日本の医療

【授業内容】 アジア・太平洋戦争終結以降、現代までの日本医学の発展の過程を、アメリカの占領政策における医療改革、高度経済成長、インターネット闘争、公害問題、臓器移植などの課題を交叉させながら多角的に理解する。

【授業外学修】 前回の授業内容のプリントによって大正・昭和前期までの医学の概要について確認しておくこと。

第8回：現代の医療

【授業内容】 第2次世界大戦後に発展した戦後日本の医療の特徴と課題に関する動画を視聴し、戦後日本の医療が有している社会的特徴について理解を深める。

【授業外学修】 前々回の授業内容のプリントによって戦後日本の医学と医療の課題に関する概要について確認しておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

偶数回に行われる動画視聴についてはTeamsでの課題機能において視聴後の感想を記入してもらい、各自のテーマへの関心度を把握いたします。

履修上の注意/Notes

1) 遅刻について、配信開始後10分以内にTeamsにログインしていない場合には遅刻とみなします。また、授業終了時に出席者ダウンロードの際にログアウトされている場合には早退とみなされます。遅刻については、30分以上の遅刻3回につき1回の欠席に相当します。

2) 授業ではTeamsによってパワーポイントや動画を共有していくので、自己のPCを用意すること。

情報端末の活用

講義資料はTeamsで事前配信し、オンラインで双方向授業とするので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業の内容にかかわる5つの課題から1つの課題を選択し、小レポートを1000字以内で作成する。(100点)

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は指定しません。
----	-------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	医学全史：西洋から東洋・日本まで
著者名	坂井 建雄 著・文・その他
出版社	筑摩書房
出版年	
ISBN	4480073612
教材費	1200

参考書2

書名	図説医学の歴史
著者名	坂井建雄著
出版社	医学書院
出版年	2019
ISBN	4260034367
教材費	6380

参考書3

書名	日本医療史
著者名	新村拓編
出版社	吉川弘文館
出版年	2006
ISBN	4642079600
教材費	3850

参考書4

書名	蘭学事始
著者名	杉田玄白著；緒方富雄校註
出版社	岩波書店
出版年	1982
ISBN	400330201X
教材費	660

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	特にありません。日本の医療の発展について関心をもっていただけることを願っています。
--------	--	-------	---

時間割コード	KB7859	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	野口 康彦				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

人間の心と行動

授業の概要/Course Overview

人間の心と行動に深くかかわるものには、脳の動きはもちろんのこと、身体や精神の発達あるいは障害といった出来事から、社会的な集団まで幅広い要因があります。講義を通して、人間の心や行動の仕組みに関する基本的な知識について理解を深めます。

キーワード/Keyword(s)

・記憶、学習、認知、ストレス、子ども虐待、パーソナリティ、コミュニケーション

到達目標/Learning Objectives

・心理学に関する基本的な知識（記憶、学習、認知、ストレス、パーソナリティ、コミュニケーション）について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1) シラバスを用いたガイダンス：心理学とは
- 2) 記憶と心理
- 3) 学習と行動、動機づけ
- 4) 感覚と知覚
- 5) ストレスと適応
- 6) パーソナリティ
- 7) 対人関係とコミュニケーション
- 8) まとめ(45分) 試験 (45分)

【授業外学修】

・講義資料は、可能な限り事前に配布するので、必ず授業前に読み、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

・テキストの指定はしないが、キーワードなど、関連の文献を読んで、心理学の基礎的な知識については、事前に学修をしておくこと。

履修上の注意/Notes

- (1) 毎回、スライドと必要に応じて参考資料を配信します。
- (2) オフィスアワーは、火曜日の昼休みです。
- (3) 予定は変更となる場合があります。
- (4) 事故による入院あるいは通院加療など、特段の理由が生じて、初回の授業を欠席する場合は事前に連絡をしてください。原則として、初回の授業に欠席した人の履修は認めません。

(5) チームスへの入室時間が大幅に遅れた場合は、欠席とみなします。

○オフィスアワーは、火曜日の昼休みです。

情報端末の活用

- ・小テスト、あるいは最終回の試験については、別途指示をします。
- ・必要な資料については、チームスにUPします。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、人間の心や行動の仕組みについて説明できている。
- A : 心理学の基本的な知識と考え方を修得し、人間の心や行動の仕組みについて説明できている。
- B : 心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、人間の心や行動の仕組みについて説明できている。
- C : 心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、人間の心や行動の仕組みについて説明できている。
- D : 心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、人間の心や行動の仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・1～7回の授業における小テスト（各7点×7回=49点）と8回目の試験（51点）

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	キーワードコレクション 心理学
著者名	重野純
出版社	新曜社
出版年	2012
ISBN	978-4788512900
教材費	3740

参考書2

書名	心理学理論と心理的支援 第3版
著者名	社会福祉士養成講座編集委員会
出版社	中央法規出版
出版年	2015
ISBN	978-4805851012
教材費	2320

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○

課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

臨床心理士、公認心理師

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7860	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	本山 宏希（MOTOYAMA HIROKI）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

この授業では、心理学とはどのような学問か、研究はどのように進められているかなどについて、認知心理学領域を中心に心理学全般を概観します。講義と簡単なデモンストレーションを通して、授業を進めていきます。心理学に関する基本的な知識を身につけること、科学的な視点から「心」を捉える意識を持つことを目指します。

キーワード/Keyword(s)

認知、記憶、学習、思考、パーソナリティ、認知工学

到達目標/Learning Objectives

心理学の基本的な用語を理解する。
日常的に体験される心理現象を心理学の用語、考え方をを用いて説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス
- 第2回 記憶：日常の記憶について
- 第3回 学習：レスポナント条件づけ
- 第4回 学習：オペラント条件づけ
- 第5回 思考：人間の思考の特性
- 第6回 思考：人間の主観的確率判断の特性
- 第7回 パーソナリティ：人の性格をどのように捉えるか
- 第8回 認知工学（45分）およびテスト（45分）

【授業外学習】

- （1）講義資料、参考文献を参考に授業で扱った内容を復習することが望ましい。
- （2）講義内容でとりあげた心理現象と対応する日常的な心理体験を結びつけること。また、そういった心理体験がどのようなメカニズムで生じているかを説明できるようにすること。

履修上の注意/Notes

授業中に小テストを実施します。また、8回目に最終試験を実施します。それらの総計によって評価は決定されます。
オフィスアワー：火曜日昼休み

30分以上遅刻した場合は欠席とします。

情報端末の活用

PCを用意すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 心理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（40%）と第8回目後半に実施される最終テスト（60%）から評価を行います。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	基礎心理学入門
著者名	田山忠行, 須藤昇 共編
出版社	培風館
出版年	2012
ISBN	9784563052201
教材費	2300

参考書2

書名	基礎から学ぶ心理学・臨床心理学
著者名	山祐嗣, 山口素子, 小林知博 編著
出版社	北大路書房
出版年	2009
ISBN	9784762826726
教材費	2500

参考書3

書名	グラフィック心理学
著者名	北尾倫彦 [ほか]共著
出版社	サイエンス社
出版年	1997

ISBN	9784781908250
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="checkbox"/>
コミュニケーション力	<input type="checkbox"/>
実践的英語力	<input type="checkbox"/>
社会人としての姿勢	<input type="checkbox"/>
地域活性化志向	<input type="checkbox"/>

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7862	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	細川 美由紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学入門

授業の概要/Course Overview

「心理学」とひとことで言ってもその領域は多岐にわたります。この講義では、これらの心理学の領域の中から代表的なトピックスを学ぶことを通じて、私たちの日々の行動や心の動きを振り返ることや、自分や周りの人たちを理解するヒントを得ることをねらいとしています。

キーワード/Keyword(s)

知覚、記憶、学習、情動、適応、性格、発達

到達目標/Learning Objectives

- ①心理学で用いられる基本的な用語や概念を理解することができる。
- ②講義で学んだトピックスについて、自分の行動や日常生活の事象と結び付けて考えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス、心理学とは何か
 第2回：知覚・感覚の心理学
 第3回：記憶の心理学
 第4回：学習の心理学
 第5回：情動の心理学
 第6回：適応の心理学
 第7回：性格の心理学
 第8回：発達の心理学

【授業外学修】

- (1) 講義資料はTeamsに事前にアップロードしておくので、必ず授業前に目を通しておき、分からない用語などがあればあらかじめ調べておくこと。
- (2) 授業後、新たに疑問に感じたことなどは、テキストや学術論文等を基に調べておくことが望ましい。
- (3) 各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- 第1回～第8回：（小課題）により自身の身の回りの出来事をからめながら授業の振り返りを行う。
 第2回・第3回・第7回：（実験のデモストレーション）により心理実験を実際に体験する。
 第4回：（クイズ形式授業）により一部の授業内容をクイズ形式にて問う。

履修上の注意/Notes

- ・30分以上遅刻した場合は欠席として取り扱います。
- ・通信環境の問題により講義を受講できなかった場合は、できる限り当日中にメールあるいはTeamsのチャット機能により連絡すること。その場合、個別の課題を提出することで出席とみなします。
- ・個別の質問等は授業中および終了後に受け付けます。

情報端末の活用

- ・講義資料はTeamsにて事前配信するので、必要に応じて授業開始前にプリントアウトしておくこと。
- ・小課題についてはmanabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 心理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業時に毎回、小課題を実施する(全8回)。評価における比率は小課題(100%)とする。第8回目のテストは実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書；特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7863	ナンバリング	KB-HUM-132-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Intercultural Training Methods A

授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students would also experience cross-culture by playing intercultural training games, discussion, and presentations. The following points will be taken up in this course: Cultural Assimilator, discussion with English native speakers.

キーワード/Keyword(s)

Communication, intercultural training, cross-culture, cultural difference, foreign cultures

到達目標/Learning Objectives

The purpose of this course is to know how it is like to adapt in a cross-cultural society. Goal of this course is to experience the cross-cultural atmosphere and learn how to behave in global society. Also, we aim to improve presentation skills and communication skills through activities.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. Lecture about Intercultural Communication and Culture & Behavioral learning
3. How to conduct intercultural communication in English
4. Behavioral learning (group discussion)
5. Cognitive learning(Cultural Assimilator)
6. Cognitive learning(Cultural Assimilator, presentation)
7. Cognitive learning(Cultural Assimilator, presentation)
8. Behavioral learning (Barnga)

[Homework]

Review class materials after each class. Prepare for presentation as a group.

Student will be asked to have discussion with native speakers outside of the lecture time.

[Active Learning]

Students will group up and make presentation at least once. There is group discussion in every session other than first and last lecture.

履修上の注意/Notes

This course will be partially lecture, mainly discussions and presentation. It includes active learning that student would learn interculture communication through joining each discussion session. Student will be asked to have discussion with English native speakers online. Due to the time difference, discussion will be held outside of class time.
Basically this course will be conducted in English.
If you are late for three times, it will be counted as an absent.

情報端末の活用

PC等活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Students not only who have actively participated in discussions, but also who have given a well-prepared presentation with clear speaking skills.
A : Students not only who have actively participated in discussions, but also who have given a well-prepared presentation.
B : Students who need more efforts to participate in discussions, but who have given a well-prepared presentation.
C : Students who need more effort to participate in both discussions and presentation.
D : Students not only who have not participated well in discussions, but also who did not prepare their own presentation.

成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Reaction paper 40 %, Presentation 40 % (Once or twice), Discussion 30%.

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7864	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	富澤 萌未（Tomizawa Moemi）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

『一条摂政集』を読む

授業の概要/Course Overview

平安時代の私家集には、歌物語のような性格を持つものがある。たとえば、『伊勢集』、『本院侍従集』『いぬほし（増基法師集）』『一条摂政集』などである。本授業では、この中の一つである『一条摂政集』を物語として読んでみる。そのために、同時代の人々がどのように活躍していたのか、周辺の歌集や物語なども参考にする。その上で、歌と物語との関係を明らかにする。

キーワード/Keyword(s)

日本古典文学・平安時代・一条摂政集・変体仮名・和歌

到達目標/Learning Objectives

- ・日本古典文学に関する基礎知識、研究方法を習得することができる。
- ①変体仮名を翻字し、校訂本文を作る手順を理解する。
- ②人間関係などの背景、語の意味や文法事項から、適切に本文を読み解く。
- ・上記2点を踏まえた上、自分なりの着眼点から立論することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、ガイダンス：『一条摂政御集』・藤原伊尹について
- 第2回：【授業内容】1～14首目を読む
- 第3回：【授業内容】15～28首目を読む
- 第4回：【授業内容】29～42首目を読む
- 第5回：【授業内容】43～56首目を読む
- 第6回：【授業内容】57～70首目を読む
- 第7回：【授業内容】71～84首目を読む
- 第8回：【授業内容】85～98首目を読む

【授業外学修】各回の授業外学修の方法（予習：30分以上 復習：60分）

○予習

- ・写本から翻字・校訂を自分なりにしておく（30分以上）。方法は第1回の講義にて説明する。

『一条摂政御集』の底本は、益田家旧蔵本を使用する。この本は、現存唯一残る写本であり、下記の国立国会図書館デジタルコレクションにて確認することができる。

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/995373>

より鮮明な画像を確認したい場合は、参考文献1を確認する。

【復習】

- ・授業で配った資料を読み直し、必要があれば調査して自分なりの考えをまとめる（40分）。
- ・予習した際にどこにつまずいたのかコメントを残す（20分）。

【アクティブ・ラーニング】

2～8回の授業でリアクションペーパー（調査・まとめ）の提出を求める。

【小レポート】

授業全体で学んだことをまとめ、自分の意見を述べる。

履修上の注意/Notes

- ・3分の2以上の出席を前提とする（遅刻・早退をした場合は2回で欠席とする）。

情報端末の活用

8回目でアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等を持参すること。
リアクションペーパー、小レポートについては、Teamsを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本古典文学に関する基礎知識を十分に習得し、自分の考えを極めて高いレベルで文章にまとめることができる。
A：日本古典文学に関する基礎知識を習得し、調査したことや自分の考えを高いレベル以上で文章にまとめることができる。
B：日本古典文学に関する基礎知識を概ね習得し、調査したことや自分の考えを概ね文章にまとめることができる。
C：日本古典文学に関する基礎知識を最低限習得し、調査したことや自分の考えを最低限文章にまとめることができる。
D：日本古典文学に関する基礎知識を概ね習得しておらず、調査したことや自分の考えを文章にまとめることができない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパー：50%（リアクションペーパーについては【授業及び授業外学修】参照） 小レポート：50%（授業で学んだ古典文学を読むための基礎知識、調査・研究方法が身についているか確認する）

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	一条摂政集〔伝西行筆〕（日本名筆選 41）
著者名	名児耶明 編
出版社	二玄社
出版年	2003
ISBN	9784544007510
教材費	3960

参考書2

書名	平安私家集（新日本古典文学大系 28）
著者名	犬養廉・後藤祥子・平野由紀子（『一条摂政御集』は、犬養廉校注）

出版社	岩波書店
出版年	1994
ISBN	9784002400280
教材費	4950

参考書3

書名	紫式部・定家を動かした物語：謙徳公の書いた豊蔭物語（新典社新書52）
著者名	堤和博著
出版社	新典社
出版年	2010
ISBN	9784787961525
教材費	1100

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7865	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 尚子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本近代文学

授業の概要/Course Overview

日本の近代学を通して日本の伝統的な言語文化について学ぶ。近代化の実情を知り、その上で夏目漱石の作品を読む。芥川龍之介の作品を通して常識を疑う視点を養い、葉山嘉樹の作品を通してプロレタリア文学についての認識を深める。川端康成の作品ではモダニズム文学を理解し、北條民雄の作品ではハンセン氏病と国家の関係について、遠藤周作の作品では独特なキリスト教理解を通して日本の抱える問題についての理解を深め、世界を俯瞰する広い視野を育てる。

キーワード/Keyword(s)

近代、夏目漱石、芥川龍之介、葉山嘉樹、川端康成、北條民雄、遠藤周作

到達目標/Learning Objectives

- ・近現代文学の作家についてそれぞれの特質について説明できるようになる。
- ・近現代文学の作家についてそれぞれの背景について説明できるようになる。
- ・日本文学の特質について説明できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- （1）ガイダンス「近代とは」
～富国強兵と西欧化～
- （2）夏目漱石の教員時代（「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」など）
～個人主義と近代～
- （3）芥川龍之介「桃太郎」
～多角的な視点、常識への懐疑～
- （4）葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
～プロレタリア文学とその周辺～
- （5）川端康成「伊豆の踊子」
～モダニズム文学とその周辺～
- （6）北條民雄「いのちの初夜」
～ハンセン氏病と国家～
- （7）遠藤周作「沈黙」
～日本的なキリスト教理解～
- （8）総括
～グループの総括（45分）／各自のミニレポート作成（45分）～

【授業外学修】

- (1) 事前に取り扱う作品を読んで所感をまとめておく。
 - (2) 作品の先行論文や歴史的背景について調べておく。
 - (3) 総括で出た課題について調べておく。
 - (4) 作品を通して何を伝えることができるか自分の考えをまとめておく。
- ※各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング手法】

・学生同士による話し合いと発表を行い、まとめを文章として提出する。

履修上の注意/Notes

- ①毎回授業の前に必ず課題図書を読んで、自分の考えを200字程度にまとめる。
- ②グループワークでは、課題図書の感想をもとに話し合いをする。
- ③授業の後の振り返りを400字程度にまとめて提出する。
- ④遅刻2回は欠席1回とする。

情報端末の活用

授業内はPCを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：近代文学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：近代文学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：近代文学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：近代文学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：近代文学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ①毎回の発言及び積極的参加姿勢（ミニレポート） 40パーセント
- ②総括時のレポート 60%
- ③8回目後半の期末試験は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：無し。（ただし以下の作品を読んでおくこと。） 参考書（作品）：夏目漱石「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」、芥川龍之介「桃太郎」、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、川端康成「伊豆の踊子」、北條民雄「いのちの初夜」、遠藤周作「沈黙」
----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	吾輩は猫である
著者名	夏目漱石 作
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	9784003101018
教材費	770

参考書2

書名	三四郎
著者名	夏目漱石作
出版社	岩波書店
出版年	1960
ISBN	9784003101063
教材費	550

参考書3

書名	草枕
著者名	夏目漱石作
出版社	岩波書店
出版年	1990
ISBN	9784003101049
教材費	616

参考書4

書名	蜘蛛の糸・杜子春・トロッコ：他十七篇
著者名	芥川竜之介 作
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	9784003107072
教材費	770

参考書5

書名	セメント樽の中の手紙
著者名	葉山嘉樹 [著]
出版社	角川書店
出版年	2008
ISBN	9784043917013
教材費	572

参考書6

書名	伊豆の踊り子・温泉宿：他4編
著者名	川端 康成／作
出版社	岩波書店
出版年	1979
ISBN	9784003108116
教材費	704

参考書7

書名	いのちの初夜
著者名	北條民雄 [著]
出版社	KADOKAWA
出版年	2020
ISBN	9784041109755.0
教材費	704

参考書8

書名	沈黙
著者名	遠藤周作著
出版社	新潮社
出版年	2003
ISBN	9784101123158.0
教材費	649

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

高等学校現場における教諭経験のある教員が、その経験を活かして授業を行う。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7866	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	安 龍洙（An Yongsu）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本語を考える（日本語の諸相）

授業の概要/Course Overview

- 1.日本語について日本社会と文化と関連付けてその特徴を考察する。
- 2.外国語としての日本語の諸相について考察する。

キーワード/Keyword(s)

日本語、社会言語学、日本語教育、日本語と社会、外国語としての日本語

到達目標/Learning Objectives

- 1.日本語について日本の社会と文化と関連付けて捉えることができる。
- 2.日本語教育の観点から日本語を客観的に捉えることができる。
- 3.外国語としての日本語を客観的に捉えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回. シラバスによるガイダンス、社会言語学の視点から日本語を考える（未定）
- 第2回. 地域に根ざした言葉(p.47～71)（未定）
- 第3回. 話し手に根ざした言葉(p.73～100)（未定）
- 第4回. 聞き手・状況に合った言葉(p.101～132)（未定）
- 第5回. 日本語と日本人の言語行動（安）
- 第6回. 日本語と日本語史（安）
- 第7回. 日本語と日本型コミュニケーション（安）
- 第8回. 日本語と日本語学習者（安）

【授業外学習】

- ・各回の授業外学修に要する時間は平均90分程度を目安とする。（レポート作成を含む）
 - ・第2回～4回は manaba で事前配信する課題に回答し、提出した上で授業に臨むこと。
- 授業後は教科書の該当箇所を読んで復習すること。
- ・第5回～8回は、事前配信する課題・問題について解答を用意し、授業に臨むこと。自分が用意した解答と模範解答を比較しながら復習すること。

【アクティブラーニング】

- ・第1回～4回は「振り返り」を記入して提出すること。
- ・第5回～8回は、毎回授業に関する感想、質問等をコメントカードに作成して

yongsu.an.prof@vc.ibaraki.ac.jpに提出すること。

- ・全授業通して以下のアクティブラーニングを用いて、理解を深める。
(シンク・ペア・シェア) 課題を個人、ペア、全体で考察し、考えを共有する。
(グループディスカッション) グループに分かれて、課題を考察する。

履修上の注意/Notes

- ①2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
- ②遅刻3回=欠席1回とする。開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ③第1回~4回は教科書(石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社 840円)を購入し、必ず授業時に参照できるようにしてください。
※本授業は「日本語教育プログラム」の必修科目であるため、履修者数が多数である場合同プログラム履修予定の人文社会科学部、教育学部の学生を優先する。
【オフィスアワー】 八若(木4講時)/ 安(水2講時)

情報端末の活用

- ・第2回~4回は事前に課題をmanabaで事前配信するので、回答の上指定された期日までにmanabaを通じて提出すること。
- ・前半の課題レポートは、manabaを通じて提出すること。
- ・後半のレポートはyongsu.an.prof@vc.ibaraki.ac.jp に提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識を十分に修得し、さらにそれに基づいた分析・説明ができています。
- A : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識を修得し、さらにそれに基づいた分析・説明が適格にできています。
- B : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識を概ね修得し、さらにそれに基づいた分析・説明ができています。
- C : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識について最低限の修得をしており、さらにそれに基づいた分析・説明ができています。
- D : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識が修得できておらず、さらに分析・説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ①第1回~4回は レポート40% 授業貢献度(振り返り・課題提出を含む)10%
- ②第5回~8回は レポート40% 授業貢献度(課題・コメントカード) 10%
- ③期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	日本語は「空気」が決める：社会言語学入門
著者名	石黒圭 著
出版社	光文社
出版年	2013
ISBN	9784334037468
教材費	840

備考	<p>①1回～4回（上記教科書を必ず購入すること）。この他に、授業時に参考資料等を配布する。</p> <p>②5回～8回は、授業時に適宜資料を配布する。</p> <p>参考書/Reference Book(s)</p>
-----------	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7867	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	佐々木 啓				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

教養としての日本戦後史

授業の概要/Course Overview

2022年は、日本の第二次世界大戦敗戦から数えると77年、1868（明治元）年から数えると154年にあたる。つまり、明治元年を近代の始点とするならば、近現代史の半分はすでに「戦後史」だということになる。

そんな「戦後」について、皆さんはどのようなイメージがあるだろうか。平和、民主化、経済成長などなど、様々な事柄が立て続けに思い浮かぶ人がいるかもしれない。あるいは、高校までにあまり時間をかけて「戦後史」を学習してこなかったため、イメージがわからないという人もいよう。日本史のなかでも現在に近く、身近であるはずの「戦後」の歴史は、案外学ぶ機会のない対象である。

そこで本講義では、知っているようで知らない、あるいは、身近でないようで身近な、日本の「戦後史」について、様々な事柄に光をあて、考察したいと思う。

キーワード/Keyword(s)

総力戦 戦後日本 占領 平和 民主化 55年体制 高度経済成長 企業社会 象徴天皇制 新自由主義

到達目標/Learning Objectives

- 1) 日本の戦後史について、基本的な流れを理解する。
- 2) 日本の戦後史について、多角的視点で説明できるようになる。
- 3) 現在の日本の諸問題について、歴史的な視点から考察できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス／「戦後」とはなにか？

第2回：日本国憲法の制定と定着

第3回：日米安保体制の形成

第4回：高度経済成長とは何だったのか

第5回：企業社会の時代

第6回：新自由主義の時代

第7回：在日コリアンの「戦後」

第8回：全体のまとめ

【授業外学修】

(1) 次回学習する時代や内容については、事前に通告するので、参考文献などで予習し、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

(2) 毎回formsを使って授業内容についての課題を出すので、よく考え、期日までに解答すること。

(3) 高等学校で日本史を履修していない場合は、中村政則『戦後史』を一通り読んでおくことが望ましい。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時は、意見や感想、質問を記入する時間をとり、理解度の確認を行う。
- (2) 毎回の授業開始時には、前回授業の感想や質問をいくつか紹介し、質問に答える。

履修上の注意/Notes

私語・遅刻厳禁。オフィスアワーは火曜日の昼休み。

情報端末の活用

・講義資料はTeamsのファイル欄で事前配信する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

毎回の課題への取り組み(30%)、レポートの点数(70%)。
いずれも到達目標(1)~(3)を、評価の主要な観点とする。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	もういちど読む山川日本戦後史
著者名	老川慶喜著
出版社	山川出版社
出版年	2016
ISBN	4634591138
教材費	1650

参考書2

書名	戦後日本史：時代をラディカルにとらえる
著者名	山田敬男著
出版社	学習の友社
出版年	2009
ISBN	4761706546
教材費	2640

書名	戦後史
著者名	中村政則著
出版社	岩波書店
出版年	2005
ISBN	4004309557
教材費	1034

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7868	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	青山 和夫				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

マヤ文明

授業の概要/Course Overview

前1000年頃から中米で盛衰したマヤ文明は、先スペイン期（16世紀以前）のアメリカ大陸において、文字、暦や天文学をもっとも発達させた「石器の都市文明」であった。講師自身の現地調査を含む最新の研究成果を紹介する。マヤ文明の実像に迫り、いわゆる「謎と神秘の文明」という誤ったイメージを一新する。

キーワード/Keyword(s)

マヤ文明、比較文明論、文化人類学、一次文明、世界六大文明、環境文明史、王権、石器、マヤ文字

到達目標/Learning Objectives

1. マヤ文明を学ぶことによって、文明とは何かを考察できる。
 2. マヤ文明を理解する上で基本的な用語や概念を説明できる。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) シラバスを用いたガイダンス、マヤ文明とは何か
- (2) マヤ文字や暦について学ぶ
- (3) ホンジュラスの現地調査から学ぶ
- (4) 諸王、女王、貴族たちについて考える
- (5) 農民の生活について学ぶ
- (6) グアテマラの現地調査から学ぶ
- (7) マヤ文明を学ぶ今日的意義について考える
- (8) まとめ

【授業外学修】

毎回の講義の前に教科書の予習の有無を確認する予習テストを実施するので、必ず予習するように。重要な用語について毎回の講義で説明するので、よく復習するように。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の講義の前に教科書の予習の有無を確認する予習テストを Forms で実施する。毎回、授業の考察、意見、質問に関する小テストを Forms で提出する。

履修上の注意/Notes

高校世界史Bの履修を前提としない。講義では、基礎的な事柄から丁寧に説明する。予習レポートと小テストにきちんと回答すれば、必ず良好な成績を確保できる授業である。1回目の授業から毎回の授業の予習テストのために教科書を活用するので、必ず事前に購入していただきたい。

遅刻は原則として認めない。

オフィス・アワー：木曜日昼休み（事前に必ずメールで予約することkazu0.aoyama.1@vc.ibaraki.ac.jp）

情報端末の活用

毎回のオンライン授業でPCを活用し、Teamsで授業を実施する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：マヤ文明の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：マヤ文明の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：マヤ文明の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：マヤ文明の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：マヤ文明の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

Formsによる毎回の予習レポートと小テスト（計100点、到達目標1-2に関連）

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	マヤ文明：密林に栄えた石器文化
著者名	青山和夫著
出版社	岩波書店
出版年	2012
ISBN	978-4004313649
教材費	800

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	古代マヤ石器の都市文明 増補版
著者名	青山和夫 著
出版社	京都大学学術出版会
出版年	2013
ISBN	9784876988594
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7869	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	松本 光太郎				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

環境心理学入門

授業の概要/Course Overview

この授業では、身の周りにある環境に関する講義と課題を通して、私たちの心に関する理解が広がる・深まることを目指します。

キーワード/Keyword(s)

心理、環境、身体、対象、生活、知覚、行為、移動

到達目標/Learning Objectives

- ・心理学の知見を理解できる
- ・課題に積極的に取り組むことができる
- ・私たちの身の周りおよび人の心について理解が深まる
- ・地域の具体的な課題に関する理解が進む

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを使ったガイダンス
- 2 講義1：環境と人間との関係
- 3 講義2：環境の中を動く、環境に出会う
- 4 講義3：知覚と行為（課題1：探す）
- 5 課題1の検討
- 6 課題2：つくる
- 7 課題2の検討
- 8 まとめ

【授業外学習】

- ・課題に取り組む際に、授業の内容を理解しておくことが必要であるため、復習をしておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義で学んだことを課題を通して、理解を深め、さらに学びを広げていく。
- ・授業終了時には、小レポートを通して理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則認めない。

情報端末の活用

PCあるいはタブレットを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 環境心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、課題やレポートが特に秀でている。
A : 環境心理学の基本的な知識と考え方を修得し、課題やレポートが秀でている。
B : 環境心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、標準的な課題やレポートを提出している。
C : 環境心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、最低限の課題やレポートを提出している。
D : 環境心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに課題やレポートが評価できない。

成績の評価方法/Grading

課題が50%、授業時の小レポートが20%、期末レポートが30%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	生態学的視覚論
著者名	ギブソン
出版社	誠信書房
出版年	1985
ISBN	
教材費	4593

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7870	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	数井 みゆき（Kazui Miyuki）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

男性の子育てを考えよう！

授業の概要/Course Overview

男性にとって養育とは何なのかを複数の観点から考えていく。オスが養育に関わる種は多くはないが、進化的な観点からヒトにとってはオスが関わるメリットがある。実際に子どもの育ちに本格的に関わる男性にはどのような特徴があるのかを社会経済的要因、心理的要因などから考える。男親が子どもにかかわることでの子どもへの影響も学ぶ。授業では映像資料を用いることで、より具体的な理解を進める。

キーワード/Keyword(s)

男性 養育 かかわり 夫婦 進化的背景 ライフワークバランス 子どもへの影響

到達目標/Learning Objectives

- ・「思い込み」から解放され、社会や人の多様性を理解でき、その中で生きていることを考察できる。
- ・自分の意見を持ち発信できること、説明できること、自分とは違う考えを受け止めることができる。
- ・みんな赤ん坊から出発しているという当たり前のことを理解していく。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス--子育ての考え方についての時代的背景--

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容をもとに復習をする。

次週の予習として関連するテキスト部分を読んでおく。

第2回：【授業内容】日本の男性の現状（テキスト：第1、2章）

子育ては母親の仕事なのだろうか？という視点から映像を観る。リアクションペーパーを行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットなどで調べておく。

第3回：【授業内容】オスの子育ての進化的背景（プリント配布）

3、4人のグループでこの内容について話し合い（ディスカッション）を行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットなどで調べておく。

第4回：【授業内容】異なる文化における男性の養育

ビデオを観た考察を振り返りシートに記入する。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキストなどで調べて、読んでおく。

第5回：【授業内容】ライフワークバランスとの関連（テキスト：第2章）

男性の育児休業取得や働き方の影響などに関するディスカッションを少人数グループで行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連するテキスト部分などを読んでおく。

第6回：【授業内容】夫婦関係の影響（テキスト：第3章、終章）

振り返りシートを使って、男性の子育てに対する夫婦関係の影響を考察する。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキスト部分などで読んでおく。

第7回：【授業内容】男性がかかわることの子どもに対するメリット（テキスト：第3章）

3, 4人のグループでこの内容について話し合い（ディスカッション）を行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキスト部分などで読んでおく。

第8回【授業内容】まとめ（45分） 子どもとのかかわりで成長する男性（テキスト：第3章、終章）

期末テスト（45分）

【授業外学修】本授業全体を改めて復習しておく。

履修上の注意/Notes

- ①ディスカッションには積極的に参加し、自分の意見を言うように努力すること。
- ②ディスカッションでも、振り返りシートの記入に際しても、この授業では明確な正解や不正解は無いので、とにかく自分の考えを発信するようにすること。
- ③遅刻は原則認めない。20分以上遅刻した場合は欠席扱いとする。
- ④何か理由があって授業を休んだ場合は個別に対応する。

情報端末の活用

- ・講義資料などの配布は、主にTeamsなどを通して行うので、授業前に確認して資料はダウンロードしておく。授業中に閲覧できるように準備をする。
- ・7回目か8回目に授業アンケートを実施する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・最後のテストが60%、振り返りシート（2回分、各20%）が40%で最終的な成績となる。
- ・テストは論述形式であり、問いに対しての解答において、必要な情報の概略における正確性、並びに、自分の思考の論理的整合性などを中心に評価を行う。
- ・振り返りシートは、問いに対して、授業内容の概説とともに自分の考えの明確な論述の有無で評価を行う。

教科書/Textbook(s)

備考	テキストは指定せずに、プリントを使用する。
----	-----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	養育者としての男性：父親の役割とは何か
著者名	数井みゆき編著
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2021
ISBN	9784623091225
教材費	3850

参考書2

書名	パパの家庭進出がニッポンを変えるのだ!：ママの社会進出と家族の幸せのために
著者名	前田晃平著
出版社	光文社
出版年	2021
ISBN	9784334952433
教材費	1540

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7871	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	石井 宏典				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

人間理解を目指す心理学の導入講義です。人はみな、それぞれに個性豊かな「わたし」を生きています。では、この「わたし」はどのようにして育まれてきたのでしょうか。「わたし」が形成される過程に焦点をあて、その過程において身近な相手や周囲の環境がどのように影響を及ぼしているのかについて考えます。それは、わたしたちがいかに社会によって方向づけられているのかを自覚する作業でもあります。なお、これまで心理学が築いてきた人間を理解するための方法論についてもふれます。

キーワード/Keyword(s)

心理学、人格（パーソナリティ）、関係、社会、状況の力、社会化

到達目標/Learning Objectives

- 1) 人格（パーソナリティ）が周囲との関係のなかで形成されるという視点を理解できる。
- 2) 人間心理と社会との相互関係について考察する姿勢を身につける。
- 3) 心理学の認識スタイルの特色について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1) シラバスを用いたガイダンス、人間理解と心理学
- 2) 「わたし」へのまなざし
- 3) 個人の内発的な力／状況の力
- 4) 「わたし」が形成される過程：モデリングと鏡に映った自己
- 5) 人格（パーソナリティ）の理論・とらえ方
- 6) 心理学の認識論：「心」を測定する、関係のなかの「心」
- 7) 社会による方向づけ（社会化）と人格形成
- 8) まとめ：人格と社会の相互関係

【授業外学修】

- 1) 授業後に授業ノートおよび配付資料をもう一度精読する。適宜、関連の辞典などにあたる。
- 2) 授業内容を咀嚼しながら自分が考えたことを整理し、書き出しておく。
- 3) 第3回、6回の授業後には、小レポート課題に取り組む。

履修上の注意/Notes

①毎回授業の内容を復習し、指示された課題をかならず提出すること。②15分以上の遅刻は欠席扱いとなるので注意すること。③小レポートは、授業のなかでいくつか紹介する。

情報端末の活用

PCを用意すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：授業で扱った知見と考え方を深く理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会についての考察を発展させることができる。
- A：授業で扱った知見と考え方を理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
- B：授業で扱った知見と考え方を概ね理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
- C：授業で扱った知見と考え方についてある程度理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
- D：授業で扱った知見と考え方が理解できておらず、それらをふまえた人間心理と現代社会についての考察が困難である。

成績の評価方法/Grading

授業への取り組み（小レポート提出を中心とする）と最終レポートの内容（4：6）をもとに評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	指定なし。配付資料を用いる。
----	----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いんとろだくしょん社会心理学
著者名	細江達郎ほか
出版社	新曜社
出版年	1990
ISBN	4788503689
教材費	2200

参考書2

書名	心理学研究法入門
著者名	南風原朝和ほか
出版社	東京大学出版会
出版年	2001
ISBN	4130120352
教材費	2800

参考書3

書名	「私」とは何か
著者名	浜田寿美男
出版社	講談社
出版年	1999
ISBN	4062581701
教材費	1800

参考書4

書名	社会心理学・再入門：ブレイクスルーを生んだ12の研究
著者名	ジョアンヌ・R・スミス, S・アレクサンダー・ハスラム 編
出版社	新曜社
出版年	2017
ISBN	9784788515390
教材費	2900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7872	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	加藤 篤志				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

コミュニケーションと現代社会

授業の概要/Course Overview

メディアの変動に代表されるようなさまざまな特徴を持った現代社会における、人と人とのコミュニケーションや人間関係の変動を中心に取り上げる。こうした問題については、しばしば漠然とした印象論や先入観に基づいた議論がなされがちだが、それらにとらわれることなくそうした諸問題を考察・検討するために、ここでは主に社会学の方法論を用いることになる。特に、国際化・情報化に代表される「近代化」との関連を重視する。

キーワード/Keyword(s)

コミュニケーション 対人関係 近代化 社会学 情報化

到達目標/Learning Objectives

- ・コミュニケーションや対人関係の問題に対する社会的な見方の基礎を身につける。
- ・現代社会におけるコミュニケーションや対人関係に関する諸現象を、単純な印象論や先入観にとらわれることなく理解し、考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、「コミュニケーション」という概念について

【授業外学修】授業内容をもとに課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】社会学で見るコミュニケーション

【授業外学修】配布資料などをもとに、ここまでの授業内容を確認し、次回以降の授業に備えておく。

【授業内容】現代社会とはどのような社会か

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】メディアの変動をどう考えるか：「すべてはメディアのせい」なのか？

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】現代社会における対人関係

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】データから見る現代のコミュニケーション

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】今後のコミュニケーションの展望

【授業外学修】配布資料などをもとに今回までの授業内容を確認するとともに、課題について十分に考え、期日までに提出する。

【アクティブ・ラーニング】授業内容に関連した課題を課し、指定された締切までに提出してもらう。

【授業内容】まとめ・補足説明

【授業外学修】これまでの授業内容を確認し、最終レポートに備える。

履修上の注意/Notes

単に講義内容を聞くだけではなく、それを手がかりにして「自ら考える」態度を身につけて欲しい。

授業の冒頭で資料・課題の配付や事務連絡等を行うので遅刻はしないこと。

情報端末の活用

- ・オンライン授業に際してはTeamsを用いる予定。
- ・授業期間中の課題については、Teamsの「課題」を通じて提出する
(学期末レポートを除く。これについては別途指示する予定)。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点から十分に考察し記述することができる。

A : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点から考察し記述することができる。

B : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点からある程度考察し記述することができる。

C : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点から最低限の水準までは考察し記述することができる。

D : 現代社会におけるコミュニケーションや対人関係の基本的な問題に対して、社会学的な視点から考察し記述することができていない。

成績の評価方法/Grading

学期末のレポート(88%)および授業中の課題(12%)。レポートについては授業内容を踏まえた上で、与えられた課題について各自の視点からの程度論理的に考察できるかを評価する予定。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書 ; 特になし
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	考える力が身につく社会学入門
著者名	浅野智彦他
出版社	中経出版
出版年	2010
ISBN	9784806134886
教材費	1429

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7873	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	村上 信夫（Nobuo Murakami）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

メディアと社会

授業の概要/Course Overview

我々が茨城大学でメディアを学ぶ理由は何でしょうか。例えば「事実」と思っていることの殆どは、自分が経験したことではなくメディアを通じて知り、その中から自分が選択したものに過ぎません。リップマンはこれを「議事環境」と呼んでいます。メディア技術の変化は我々の感性を大きく変え、それはデジタル化によりさらに加速しています。10年前の我々と現在の我々は、大きく変わっています。メディアを学ぶとは、自分が何によって成り立っているのかを自覚することです。オンライン授業だが、双方向性を重視した授業を行うので、積極的な受講を希望します。なおシラバスは目安であり、受講者の関心、理解などにより適時変更します。

キーワード/Keyword(s)

マスメディア マスコミ メディア史 新聞 映画 ラジオ テレビ 広報 広告 PR メディアイベント 政治とメディア ポピュラー・カルチャー メディアリテラシー SNS ソーシャルメディア Instagram LINE Twitter Facebook

到達目標/Learning Objectives

- 1 メディアと社会、文化についてその基礎を知る。
- 2 メディアの歴史を理解し、その影響を理解できる。
- 3 各自の表現力、コミュニケーション力を育成する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 ガイダンス 講義
○8回の授業内容
○成績・出欠はレスポンスレターの提出で行う。
○講義「メディアとは何か 再帰的近代の時代に」
- 2 講義「声の文化 文字の文化 …… はじめに言葉ありき」
- 3 講義「声の文化 文字の文化 …… ソクラテスの文字批判の今日性」
- 4 講義「印刷革命 そのインパクト」
- 5 講義「モバイルデバイス 場所感覚の喪失」
- 6 講義「電話からスマホ (1) 音声コミュニケーションから文字コミュニケーション」
- 7 講義「電話からスマホ (2) SNS的なつながりって」
- 8 まとめ「SNSと分断化社会」

【進め方】

- 1 シラバスは目安であり、受講生の関心、理解度などを見て、随時、変更します。
- 2 復習用に資料は配布しますので、授業中は集中してください。
- 3 受講者の能動的参加が必須となります。

【授業外学修】

- 1 予習：参考テキスト「メディア文化論」「メディア社会論」の該当ページを事前に読んでおくこと。
- 2 復習：自分のノートとレジュメを参考に授業内容を確認し、自分のものとしてください。
- 3 日頃から、授業で学んだ知識や視点、考え方を踏まえて、テレビ、新聞、雑誌、ラジオ（※あえてWEB情報は外す）などのマスメディアに1日30分以上、毎日、接してください。疑問があれば、授業で質問し、知識・考え方を確実にしてください。

【アクティブラーニング手法】

- ・教員が学生に対して問いかけをし、学生に考えさせる（「ソクラテス問答」）
- ・ディスカッション
- ・グループで調査・研究を行い発表する「グループワーク」を行う。
- ・履修者は、毎回、授業の最後にコメントを書いたミニツツペーパーを提出。

履修上の注意/Notes

- 1 毎回、終了後2日以内に、感想・得た知見・質問をまとめたレスポンスレターを提出してください。
- 2 レスポンスレターの内容は、受講者全員で共有します。了解しておいてください。
- 3 成績はレスポンスレターの積算で判断します。そのため、未提出の場合、成績評価は低くなります。
- 4 事前に連絡がなく、正当な理由のない10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
- 5 問い・仮説は学びの出発点です。毎回、授業前に、「今日、何を学ぶか」問い・仮説を立てて、授業に臨んでください。
- 6 授業中は授業を聞く、参加することに集中してください。内職行為は、見つけ次第退席、単位を与えないことがあります。

情報端末の活用

- 1 講義資料はmanabaで事前配信します。
- 2 レスポンスレターはmanabaを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

○成績の評価

- 1 成績はレスポンスレターに対する評価の積算で判断します。（100%）
- 2 レスポンスレターには、問い・仮説を書いた上で、感想、得た知見を記入してください。
賛否、内容は問いませんが、クオリティー、授業を聞いた上での意見かなどを評価します。
授業に参加せず、資料を読んだだけでの意見／感想や根拠を挙げずに他者を批判するレッテル貼りは評価しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	メディア文化論 改訂版
著者名	吉見俊哉著

出版社	有斐閣
出版年	2015
ISBN	
教材費	1944

教科書2

書名	メディア社会論
著者名	辻泉
出版社	有斐閣
出版年	2018
ISBN	
教材費	1980

備考	参考書：宮本徹著「ことばとメディア」（放送大学教材 NHK出版）2,600円 有山輝雄著「メディア史を学ぶ人のために」（世界思想社）1,233円
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

現役の放送作家でもある教員が、その経験を活かして、メディアの現状、課題、未来について現場の動きも含め説明する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7874	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 尚子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本近代文学

授業の概要/Course Overview

日本の近代学を通して日本の伝統的な言語文化について学ぶ。近代化の実情を知り、その上で夏目漱石の作品を読む。芥川龍之介の作品を通して常識を疑う視点を養い、葉山嘉樹の作品を通してプロレタリア文学についての認識を深める。川端康成の作品ではモダニズム文学を理解し、北條民雄の作品ではハンセン氏病と国家の関係について、遠藤周作の作品では独特なキリスト教理解を通して日本の抱える問題についての理解を深め、世界を俯瞰する広い視野を育てる。

キーワード/Keyword(s)

近代、夏目漱石、芥川龍之介、葉山嘉樹、川端康成、北條民雄、遠藤周作

到達目標/Learning Objectives

- ・近現代文学の作家についてそれぞれの特質について説明できるようになる。
- ・近現代文学の作家についてそれぞれの背景について説明できるようになる。
- ・日本文学の特質について説明できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- （1）ガイダンス「近代とは」
～富国強兵と西欧化～
- （2）夏目漱石の教員時代（「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」など）
～個人主義と近代～
- （3）芥川龍之介「桃太郎」
～多角的な視点、常識への懐疑～
- （4）葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
～プロレタリア文学とその周辺～
- （5）川端康成「伊豆の踊子」
～モダニズム文学とその周辺～
- （6）北條民雄「いのちの初夜」
～ハンセン氏病と国家～
- （7）遠藤周作「沈黙」
～日本的なキリスト教理解～
- （8）総括
～グループの総括（45分）／各自のミニレポート作成（45分）～

【授業外学修】

- (1) 事前に取り扱う作品を読んで所感をまとめておく。
 - (2) 作品の先行論文や歴史的背景について調べておく。
 - (3) 総括で出た課題について調べておく。
 - (4) 作品を通して何を伝えることができるか自分の考えをまとめておく。
- ※各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング手法】

・学生同士による話し合いと発表を行い、まとめを文章として提出する。

履修上の注意/Notes

- ①毎回授業の前に必ず課題図書を読んで、自分の考えを200字程度にまとめる。
- ②グループワークでは、課題図書の感想をもとに話し合いをする。
- ③授業の後の振り返りを400字程度にまとめて提出する。
- ④遅刻2回は欠席1回とする。

情報端末の活用

授業内はPCを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：近代文学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：近代文学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：近代文学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：近代文学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：近代文学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ①毎回の発言及び積極的参加姿勢（ミニレポート） 40パーセント
- ②総括時のレポート 60%
- ③8回目後半の期末試験は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：無し。（ただし以下の作品を読んでおくこと。） 参考書（作品）：夏目漱石「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」、芥川龍之介「桃太郎」、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、川端康成「伊豆の踊子」、北條民雄「いのちの初夜」、遠藤周作「沈黙」
----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	吾輩は猫である
著者名	夏目漱石 作
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	9784003101018
教材費	770

参考書2

書名	三四郎
著者名	夏目漱石作
出版社	岩波書店
出版年	1960
ISBN	9784003101063
教材費	550

参考書3

書名	草枕
著者名	夏目漱石作
出版社	岩波書店
出版年	1990
ISBN	9784003101049
教材費	616

参考書4

書名	蜘蛛の糸・杜子春・トロッコ：他十七篇
著者名	芥川竜之介 作
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	9784003107072
教材費	770

参考書5

書名	セメント樽の中の手紙
著者名	葉山嘉樹 [著]
出版社	角川書店
出版年	2008
ISBN	9784043917013
教材費	572

参考書6

書名	伊豆の踊り子・温泉宿：他4編
著者名	川端 康成／作
出版社	岩波書店
出版年	1979
ISBN	9784003108116
教材費	704

参考書7

書名	いのちの初夜
著者名	北條民雄 [著]
出版社	KADOKAWA
出版年	2020
ISBN	9784041109755.0
教材費	704

参考書8

書名	沈黙
著者名	遠藤周作著
出版社	新潮社
出版年	2003
ISBN	9784101123158.0
教材費	649

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

高等学校現場における教諭経験のある教員が、その経験を活かして授業を行う。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7875	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	佐々木 啓				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

教養としての日本戦後史

授業の概要/Course Overview

2022年は、日本の第二次世界大戦敗戦から数えると77年、1868（明治元）年から数えると154年にあたる。つまり、明治元年を近代の始点とするならば、近現代史の半分はすでに「戦後史」だということになる。

そんな「戦後」について、皆さんはどのようなイメージがあるだろうか。平和、民主化、経済成長などなど、様々な事柄が立て続けに思い浮かぶ人がいるかもしれない。あるいは、高校までにあまり時間をかけて「戦後史」を学習してこなかったため、イメージがわからないという人もいるだろう。日本史のなかでも現在に近く、身近であるはずの「戦後」の歴史は、案外学ぶ機会のない対象である。

そこで本講義では、知っているようで知らない、あるいは、身近でないようで身近な、日本の「戦後史」について、様々な事柄に光をあて、考察したいと思う。

キーワード/Keyword(s)

総力戦 戦後日本 占領 平和 民主化 55年体制 高度経済成長 企業社会 象徴天皇制 新自由主義

到達目標/Learning Objectives

- 1) 日本の戦後史について、基本的な流れを理解する。
- 2) 日本の戦後史について、多角的視点で説明できるようになる。
- 3) 現在の日本の諸問題について、歴史的な視点から考察できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス／「戦後」とはなにか？

第2回：日本国憲法の制定と定着

第3回：日米安保体制の形成

第4回：高度経済成長とは何だったのか

第5回：企業社会の時代

第6回：新自由主義の時代

第7回：在日コリアンの「戦後」

第8回：全体のまとめ

【授業外学修】

(1) 次回学習する時代や内容については、事前に通告するので、参考文献などで予習し、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

(2) 毎回formsを使って授業内容についての課題を出すので、よく考え、期日までに解答すること。

(3) 高等学校で日本史を履修していない場合は、中村政則『戦後史』を一通り読んでおくことが望ましい。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時は、意見や感想、質問を記入する時間をとり、理解度の確認を行う。
- (2) 毎回の授業開始時には、前回授業の感想や質問をいくつか紹介し、質問に答える。

履修上の注意/Notes

私語・遅刻厳禁。オフィスアワーは火曜日の昼休み。

情報端末の活用

・講義資料はTeamsのファイル欄で事前配信する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

毎回の課題への取り組み(30%)、レポートの点数(70%)。
いずれも到達目標(1)~(3)を、評価の主要な観点とする。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	もういちど読む山川日本戦後史
著者名	老川慶喜著
出版社	山川出版社
出版年	2016
ISBN	4634591138
教材費	1650

参考書2

書名	戦後日本史：時代をラディカルにとらえる
著者名	山田敬男著
出版社	学習の友社
出版年	2009
ISBN	4761706546
教材費	2640

書名	戦後史
著者名	中村政則著
出版社	岩波書店
出版年	2005
ISBN	4004309557
教材費	1034

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7876	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	向野 康江				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

満洲日本人物語：「戦争は必要悪」と「金持ち喧嘩せず」の論理

授業の概要/Course Overview

本授業は、「いったい何が真実か」と問い続ける授業です。私たちは日本人に生まれて、日本人として誇りに思うことができる文化をたくさんもっています。歴史についても同様で、満洲における日本人実業界の形成もその一つです。もう、イデオロギーに左右されながら歴史を語る時代ではありません。あくまでも、客観的事実に基づいて歴史を語る時代に入ったのです。だから、常に研究心を失わず、歴史と向き合う態度が必要です。私は自分で得た情報を、皆さんにお伝えします。同時に考えてほしいのです。明治に生まれた若者が、何を目指して中国にわたっていったのかを。

また、平和を目指してほしいのです。戦争は避けられません。経済戦争、民族戦争、いろいろあります。ただし、命を奪う殺し合いだけは避けなければなりません。なぜならば死ねば二度とは生き返りませんから。

皆さんもいずれは親となり、年配者となって「学ぶ」だけの立場から「教える」立場になっていくでしょう。そのとき、多様な視点で物事を分析できる人になっていただきたいのです。だから、この授業では「理解」することが重要になります。例えば、日清戦争から満州事変勃発前までの、中国大陸における日本人の商業活動を、映像中心に把握しながら、理解していただきたいです。文章と違って、加工されていない写真は、当時の真実を伝えます。日本人が現地の人々とのような商業展開を図っていったか、何を目指して頑張っていたかを映像で知れば、社会背景（政治状況）とともに、自立した観点で国際理解の意義や方法を見出すことができるようになるでしょう。当時の彼らの活動を理解しなければ、戦争で命を失った人々が不憫です。このような見地で、本授業は進めてまいります。

キーワード/Keyword(s)

日清貿易研究所 日清戦争特別任務 筑紫洋行 義和団事変 日露戦争
 玄洋社 奉天 正隆銀行 孫文 南満洲鐵道 馬賊 大陸浪人

到達目標/Learning Objectives

- 1) 日清戦争から満州事変勃発前までの中国大陸における日本人の商業活動を映像中心に把握しながら、当時、日本人が現地の人々とのような商業展開を図っていったかを、社会背景（政治状況）とともに理解できる。
- 2) 自立した観点で国際理解の意義や方法を見出すことができる。
- 1) 日清戦争から満州事変勃発前までの中国大陸における日本人の商業活動を映像中心に把握しながら、当時、日本人が現地の人々とのような商業展開を図っていったかを、社会背景（政治状況）とともに理解できる。
- 2) 自立した観点で国際理解の意義や方法を見出すことができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

シラバスを用いたガイダンス

- (1) 馬賊の歌を聴いて、その内容を考察する。
 (馬賊と大陸浪人の役割を理解する。)

ポイント：なぜ満洲を目指したのか。歌の裏側にある背景を探る。

(2) 日本人の賢さと阿呆さが世界に与える影響

玄洋社と荒尾精

(1) 小林よしのりの『大東亜論』を用いて「玄洋社」について学ぶ。

① 頭山満という人物について

② 来島恒喜による大隈重信襲撃事件について

(2) 映像で、荒尾精のことを学ぶ。

① 日清貿易研究所とは何か？

② 「玄洋社」とどのような関係があるの？

日清貿易研究所の学生たちと日清戦争について

(1) 学生たちの志

(2) 日清戦争は、どこの国とどこの国が戦ったのか？（誤った学校教育での歴史教育を質す）

(3) 日清戦争での通訳官は、誰が任命されたのか。

(4) 旅順事件を正しく検証しよう。当時、旅順に20万人も住んでいたのか。人肉を食べる風習による誤解？

(5) 通訳官の俸給と特別任務（10人のうち生還者は1名）

『極楽浄土』日記—台湾が親日の理由—（筑紫洋行の創立か大陸浪人への道か）

(1) 学校を建てる。

(2) 「服を着なさい」

(3) 何たる流ちょうな中国語

(4) 仏教布教

筑紫洋行の設立

(1) 公使館との交渉—香月梅外の粘り—

(2) 中国大陸への輸出ルート（「愛しい、恋しい、わが妻隆子殿」の書簡を中心に）

(3) 天津商品陳列所設立計画（安川敬一郎の発言：「貝島（太助）が出すと言ったらわしも出す」）

「義和団事件」勃発

(1) 日本人最初の犠牲者は、筑紫洋行支配人だった。

(2) 筑紫洋行壊滅—河北純三郎のあせりと黙って田畑を耕す向野堅—

満洲をねらうロシアを警戒する玄洋社—日露戦争勃発—

(1) 日露戦争と兵站部—遼西での物資輸送路の開拓と新民府有益公司設立—奉天実業界形成の道のり

(2) 義勇兵たちの集団（タンポポの根を食べて耐え忍ぶ家族たち）

奉天へ

(1) 奉天での街づくり—沼地から55万人都市になった奉天（当時のカラー映像をみる）—

(2) 茂林洋行を中心とした経済ネットワーク

(3) 日清合資・正隆銀行設立

(4) 瀋陽建物株式、奉天化学工業株式会社設立

(5) 満洲市場株式会社設立—中央市場の決算書—

(6) 奉天製氷社（株）と奉天倉庫信託会社の監査就任

(7) 奉天商業会議所副会頭時代と日本政府への抗議—奉天代表者の主張—

未だ曾て商業伸びず

(1) 孫文を応援した玄洋社

(2) 近衛文麿たちによる盡忠三烈士碑建立

(3) 荒尾精の理想実現しようとした日清貿易研究所出身者たち

まとめ

(1) 経済を立て直すための戦争のむなしさ

(2) ここでは記述できない、阿呆な歴史研究

(3) ノーベル賞受賞者湯川秀樹の「戦争は必要悪」と「金持ち喧嘩せず」の論理

履修上の注意/Notes

本授業では、毎回小レポートを書いてもらいます。

情報端末の活用

- ・毎回の授業時にはP C、スマートフォンを用意してください。
- ・課題レポートについては、manabaあるいはメールを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 近代史の特質について、基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 近代史の特質について、基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 近代史の特質について、基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 近代史の特質について、基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 近代史の特質について、基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

小レポート：48点（各6点×8回：他の授業を見学したために、最初の1回目の授業に出席しなかった人は申し出てください）／
レポート：52点

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	直方に生まれたつよくやさしい日本人・向野堅一
著者名	向野康江
出版社	茨城大学教育学部
出版年	2010
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	向野堅一（1868～1931）の経済活動―日清貿易の模索から奉天実業界形成への道程／向野書簡を中心にして―
著者名	向野康江
出版社	北九州大学
出版年	2016
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	日清貿易研究所における学生生活：向野堅一の兄たちの書簡を手掛かりに
著者名	向野康江
出版社	アジア教育史学会
出版年	2014
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	向野堅一『明治二十七八年戦役餘聞戦役夜話』再考：「旅順事件」検討の前提として
著者名	向野康江
出版社	近現代東北アジア地域史研究会
出版年	2014
ISBN	
教材費	

参考書4

書名	向野一族と向野堅一の清国渡航以前における修学
著者名	向野康江
出版社	北九州市立大学大学院社会システム研究科
出版年	2015
ISBN	
教材費	

参考書5

書名	日清商品陳列所の実修機能：向野堅一宛書簡に見る卒業生の苦闘
著者名	向野康江
出版社	アジア教育史学会
出版年	2016
ISBN	
教材費	

参考書6

書名	台湾における向野堅一の活動：日清戦争後の仏教布教・学校設立活動に立ち会う通訳官（国際アジア文化学会二十五周年記念号） --（客家と多元文化 国際交流座談会2016）
著者名	向野康江
出版社	国際アジア文化学会
出版年	2017
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7877	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	青山 和夫				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

マヤ文明

授業の概要/Course Overview

前1000年頃から中米で盛衰したマヤ文明は、先スペイン期（16世紀以前）のアメリカ大陸において、文字、暦や天文学をもっとも発達させた「石器の都市文明」であった。講師自身の現地調査を含む最新の研究成果を紹介する。マヤ文明の実像に迫り、いわゆる「謎と神秘の文明」という誤ったイメージを一新する。

キーワード/Keyword(s)

マヤ文明、比較文明論、文化人類学、一次文明、世界六大文明、環境文明史、王権、石器、マヤ文字

到達目標/Learning Objectives

1. マヤ文明を学ぶことによって、文明とは何かを考察できる。
 2. マヤ文明を理解する上で基本的な用語や概念を説明できる。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) シラバスを用いたガイダンス、マヤ文明とは何か
- (2) マヤ文字や暦について学ぶ
- (3) ホンジュラスの現地調査から学ぶ
- (4) 諸王、女王、貴族たちについて考える
- (5) 農民の生活について学ぶ
- (6) グアテマラの現地調査から学ぶ
- (7) マヤ文明を学ぶ今日的意義について考える
- (8) まとめ

【授業外学修】

毎回の講義の前に教科書の予習の有無を確認する予習テストを実施するので、必ず予習するように。重要な用語について毎回の講義で説明するので、よく復習するように。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の講義の前に教科書の予習の有無を確認する予習テストをでFormsで実施する。毎回、授業の考察、意見、質問に関する小テストをFormsで提出する。

履修上の注意/Notes

高校世界史Bの履修を前提としない。講義では、基礎的な事柄から丁寧に説明する。予習レポートと小テストにきちんと回答すれば、必ず良好な成績を確保できる授業である。1回目の授業から毎回の授業の予習テストのために教科書を活用するので、必ず事前に購入していただきたい。

遅刻は原則として認めない。

オフィス・アワー：木曜日昼休み（事前に必ずメールで予約することkazu0.aoyama.1@vc.ibaraki.ac.jp）

情報端末の活用

毎回のオンライン授業でPCを活用し、Teamsで授業を実施する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：マヤ文明の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：マヤ文明の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：マヤ文明の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：マヤ文明の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：マヤ文明の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

Formsによる毎回の予習レポートと小テスト（計100点、到達目標1-2に関連）

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	マヤ文明：密林に栄えた石器文化
著者名	青山和夫著
出版社	岩波書店
出版年	2012
ISBN	978-4004313649
教材費	800

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	古代マヤ石器の都市文明 増補版
著者名	青山和夫 著
出版社	京都大学学術出版会
出版年	2013
ISBN	9784876988594
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7878	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	数井 みゆき（Kazui Miyuki）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

男性の子育てを考えよう！

授業の概要/Course Overview

男性にとって養育とは何なのかを複数の観点から考えていく。オスが養育に関わる種は多くはないが、進化的な観点からヒトにとってはオスが関わるメリットがある。実際に子どもの育ちに本格的に関わる男性にはどのような特徴があるのかを社会経済的要因、心理的要因などから考える。男親が子どもにかかわることでの子どもへの影響も学ぶ。授業では映像資料を用いることで、より具体的な理解を進める。

キーワード/Keyword(s)

男性 養育 かかわり 夫婦 進化的背景 ライフワークバランス 子どもへの影響

到達目標/Learning Objectives

- ・「思い込み」から解放され、社会や人の多様性を理解でき、その中で生きていることを考察できる。
- ・自分の意見を持ち発信できること、説明できること、自分とは違う考えを受け止めることができる。
- ・みんな赤ん坊から出発しているという当たり前のことを理解していく。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス--子育ての考え方についての時代的背景--

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容をもとに復習をする。

次週の予習として関連するテキスト部分を読んでおく。

第2回：【授業内容】日本の男性の現状（テキスト：第1、2章）

子育ては母親の仕事なのだろうか？という視点から映像を観る。リアクションペーパーを行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットなどで調べておく。

第3回：【授業内容】オスの子育ての進化的背景（プリント配布）

3、4人のグループでこの内容について話し合い（ディスカッション）を行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットなどで調べておく。

第4回：【授業内容】異なる文化における男性の養育

ビデオを観た考察を振り返りシートに記入する。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキストなどで調べて、読んでおく。

第5回：【授業内容】ライフワークバランスとの関連（テキスト：第2章）

男性の育児休業取得や働き方の影響などに関するディスカッションを少人数グループで行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連するテキスト部分などを読んでおく。

第6回：【授業内容】夫婦関係の影響（テキスト：第3章、終章）

振り返りシートを使って、男性の子育てに対する夫婦関係の影響を考察する。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキスト部分などで読んでおく。

第7回：【授業内容】男性がかかわることの子どもに対するメリット（テキスト：第3章）

3, 4人のグループでこの内容について話し合い（ディスカッション）を行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキスト部分などで読んでおく。

第8回【授業内容】まとめ（45分） 子どもとのかかわりで成長する男性（テキスト：第3章、終章）

期末テスト（45分）

【授業外学修】本授業全体を改めて復習しておく。

履修上の注意/Notes

- ①ディスカッションには積極的に参加し、自分の意見を言うように努力すること。
- ②ディスカッションでも、振り返りシートの記入に際しても、この授業では明確な正解や不正解は無いので、とにかく自分の考えを発信するようにすること。
- ③遅刻は原則認めない。20分以上遅刻した場合は欠席扱いとする。
- ④何か理由があって授業を休んだ場合は個別に対応する。

情報端末の活用

- ・講義資料などの配布は、主にTeamsなどを通して行うので、授業前に確認して資料はダウンロードしておく。授業中に閲覧できるように準備をする。
- ・7回目か8回目に授業アンケートを実施する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・最後のテストが60%、振り返りシート（2回分、各20%）が40%で最終的な成績となる。
- ・テストは論述形式であり、問いに対しての解答において、必要な情報の概略における正確性、並びに、自分の思考の論理的整合性などを中心に評価を行う。
- ・振り返りシートは、問いに対して、授業内容の概説とともに自分の考えの明確な論述の有無で評価を行う。

教科書/Textbook(s)

備考	テキストは指定せずに、プリントを使用する。
----	-----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	養育者としての男性：父親の役割とは何か
著者名	数井みゆき編著
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2021
ISBN	9784623091225
教材費	3850

参考書2

書名	パパの家庭進出がニッポンを変えるのだ!：ママの社会進出と家族の幸せのために
著者名	前田晃平著
出版社	光文社
出版年	2021
ISBN	9784334952433
教材費	1540

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7879	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	村上 信夫（Nobuo Murakami）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

メディアと社会

授業の概要/Course Overview

我々が茨城大学でメディアを学ぶ理由は何でしょうか。例えば「事実」と思っていることの殆どは、自分が経験したことではなくメディアを通じて知り、その中から自分が選択したものに過ぎません。リップマンはこれを「議事環境」と呼んでいます。メディア技術の変化は我々の感性を大きく変え、それはデジタル化によりさらに加速しています。10年前の我々と現在の我々は、大きく変わっています。メディアを学ぶとは、自分が何によって成り立っているのかを自覚することです。オンライン授業だが、双方向性を重視した授業を行うので、積極的な受講を希望します。なおシラバスは目安であり、受講者の関心、理解などにより適時変更します。

キーワード/Keyword(s)

マスメディア マスコミ メディア史 新聞 映画 ラジオ テレビ 広報 広告 P R メディアイベント 政治とメディア ポピュラー・カルチャー メディアリテラシー SNS ソーシャルメディア Instagram LINE Twitter Facebook

到達目標/Learning Objectives

- 1 メディアと社会、文化についてその基礎を知る。
- 2 メディアの歴史を理解し、その影響を理解できる。
- 3 各自の表現力、コミュニケーション力を育成する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 ガイダンス 講義
○8回の授業内容
○成績・出欠はレスポンスレターの提出で行う。
○講義「メディアとは何か 再帰的近代の時代に」
- 2 講義「声の文化 文字の文化 …… はじめに言葉ありき」
- 3 講義「声の文化 文字の文化 …… ソクラテスの文字批判の今日性」
- 4 講義「印刷革命 そのインパクト」
- 5 講義「モバイルデバイス 場所感覚の喪失」
- 6 講義「電話からスマホ (1) 音声コミュニケーションから文字コミュニケーション」
- 7 講義「電話からスマホ (2) SNS的なつながりって」
- 8 まとめ「SNSと分断化社会」

【進め方】

- 1 シラバスは目安であり、受講生の関心、理解度などを見て、随時、変更します。
- 2 復習用に資料は配布しますので、授業中は集中してください。
- 3 受講者の能動的参加が必須となります。

【授業外学修】

- 1 予習：参考テキスト「メディア文化論」「メディア社会論」の該当ページを事前に読んでおくこと。
- 2 復習：自分のノートとレジュメを参考に授業内容を確認し、自分のものとしてください。
- 3 日頃から、授業で学んだ知識や視点、考え方を踏まえて、テレビ、新聞、雑誌、ラジオ（※あえてWEB情報は外す）などのマスメディアに1日30分以上、毎日、接してください。疑問があれば、授業で質問し、知識・考え方を確実にしてください。

【アクティブラーニング手法】

- ・教員が学生に対して問いかけをし、学生に考えさせる（「ソクラテス問答」）
- ・ディスカッション
- ・グループで調査・研究を行い発表する「グループワーク」を行う。
- ・履修者は、毎回、授業の最後にコメントを書いたミニツツペーパーを提出。

履修上の注意/Notes

- 1 毎回、終了後2日以内に、感想・得た知見・質問をまとめたレスポンスレターを提出してください。
- 2 レスポンスレターの内容は、受講者全員で共有します。了解しておいてください。
- 3 成績はレスポンスレターの積算で判断します。そのため、未提出の場合、成績評価は低くなります。
- 4 事前に連絡がなく、正当な理由のない10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
- 5 問い・仮説は学びの出発点です。毎回、授業前に、「今日、何を学ぶか」問い・仮説を立てて、授業に臨んでください。
- 6 授業中は授業を聞く、参加することに集中してください。内職行為は、見つけ次第退席、単位を与えないことがあります。

情報端末の活用

- 1 講義資料はmanabaで事前配信します。
- 2 レスポンスレターはmanabaを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

○成績の評価

- 1 成績はレスポンスレターに対する評価の積算で判断します。（100%）
- 2 レスポンスレターには、問い・仮説を書いた上で、感想、得た知見を記入してください。
賛否、内容は問いませんが、クオリティー、授業を聞いた上での意見かなどを評価します。
授業に参加せず、資料を読んだだけでの意見/感想や根拠を挙げずに他者を批判するレッテル貼りは評価しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	メディア文化論 改訂版
著者名	吉見俊哉著

出版社	有斐閣
出版年	2015
ISBN	
教材費	1944

教科書2

書名	メディア社会論
著者名	辻泉
出版社	有斐閣
出版年	2018
ISBN	
教材費	1980

備考	参考書：宮本徹著「ことばとメディア」（放送大学教材 NHK出版）2,600円 有山輝雄著「メディア史を学ぶ人のために」（世界思想社）1,233円
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

現役の放送作家でもある教員が、その経験を活かして、メディアの現状、課題、未来について現場の動きも含め説明する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7880	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	櫻井 豪人				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

変体仮名を読む

授業の概要/Course Overview

変体仮名とは明治中期まで用いられていた平仮名のことであり、国語史研究や国文学研究を行う者にとって変体仮名の判読能力は必須であるが、そうでない者にとっても、「きそば」「うなぎ」の看板から美術館・博物館の展示資料まで、日常生活の中で変体仮名に接することがある。本講義では、特に江戸期の変体仮名や主な漢字のくずし字が読めるようになることを第一目標に掲げ、様々な資料を題材として判読の訓練を行う。

キーワード/Keyword(s)

変体仮名・くずし字・判読・日本古典文学・国語学・平仮名

到達目標/Learning Objectives

- ① 主な変体仮名の字源と頻出する漢字のくずし字を覚え、文字そのものが読み取れるようになる。
- ② 実際の文章にふれて判読のコツをつかみ、文意が把握できるようになる。
- ③ 江戸期の変体仮名で書かれた簡単な仮名文学作品について、何も見なくとも解読できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

※補講を1回行うので、計9回の授業となる。

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス・現行の平仮名の字源

【授業外学修】授業で習った現行の平仮名の字源を覚えてくること。

第2回：【授業内容】古活字版『伊曾保物語』の判読 その1

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第3回：【授業内容】古活字版『伊曾保物語』の判読 その2

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第4回：【授業内容】古活字版『伊曾保物語』の判読 その3

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第5回：【授業内容】御伽草子『一寸法師』の判読 その1

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第6回：【授業内容】御伽草子『一寸法師』の判読 その2

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第7回：【授業内容】御伽草子『一寸法師』の判読 その3

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第8回：【授業内容】御伽草子『一寸法師』の判読 その4

【授業外学修】習った変体仮名や漢字のくずし字を覚えてくること。習ったところまでの復習と、次回の授業の予習をしてこること。

第9回：【授業内容】質問受付および解説（15分）・試験（75分）

履修上の注意/Notes

補講を1回行うことについて、あらかじめ承知しておくこと。また、授業時間外の予習・復習を怠ったり、授業に欠席したりすると、十分な判読能力が身につかず、試験に合格できない可能性が高くなるので注意すること。（この授業は、授業時間外で十分な予習・復習をしなければ単位を修得することができない。）質問は講義終了後に適宜受け付ける。わからないことは何でも積極的に質問することを推奨する。遅刻は認めない。

情報端末の活用

講義資料はTeamsで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。ただし、それ以外にノートと筆記具も持参すること。鉛筆のほか、赤・青・緑等の色ペンまたは色鉛筆が必要である。講義資料は事前に印刷しておき、それを持参して授業に臨む方が授業を受けやすい。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末試験100%。（評価の観点には到達目標の①②③。）期末試験は江戸期の嚙本等の影印から出題し、翻字を課すとともに、一部の仮名について字源を問う。

教科書/Textbook(s)

備考	プリントを配布する。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	江戸のかな
著者名	樋口政則
出版社	名著出版
出版年	1991
ISBN	
教材費	3000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7881	ナンバリング	KB-HUM-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 聡				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本人の死生観

授業の概要/Course Overview

今年扱うテーマは、日本人の死生観についてである。人は必ず死ぬ。そのことを前近代の日本人（「日本」とよばれる領域に住んでいた人々）は、このことをどのように受け止め、自分の死、肉親・知人の死、他人の死に対してきたかを考える。死後の世界についての思想と信仰、死者の肉体や骨の扱い方、死者への慰霊・記憶の方法などについて取り上げ、現代社会における「死」への向かい方について再考する。

キーワード/Keyword(s)

死後の世界、地獄・極楽、葬送、肉体、骨、供養絵馬、冥婚、死絵

到達目標/Learning Objectives

学生ひとりひとりが、日本人の過去の精神文化についての知見を広げることを通じ、現代に生きる我々の考え方というものが歴史的な脈にあることを理解し、それをどのように継承、或いは変革していくかを自分なりに考えることができるようにする。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1、シラバスを用いたガイダンス及び総説（現代日本社会における死）
- 2、日本人の霊魂観
【授業外学修】アップされた資料を事前に読んでおくこと。アンケートに疑問・質問等を書くこと。
- 3、死後の世界①～地獄の創造
【授業外学修】アップされた資料を事前に読んでおくこと。アンケートに疑問・質問等を書くこと。
- 4、死後の世界②～極楽と浄土信仰
【授業外学修】アップされた資料を事前に読んでおくこと。アンケートに疑問・質問等を書くこと。
- 5、死後の世界③～キリシタンと神道の来世観
【授業外学修】アップされた資料を事前に読んでおくこと。アンケートに疑問・質問等を書くこと。
- 6、死体の行方～肉体と骨
【授業外学修】アップされた資料を事前に読んでおくこと。アンケートに疑問・質問等を書くこと。
- 7、死者の記憶
【授業外学修】アップされた資料を事前に読んでおくこと。アンケートに疑問・質問等を書くこと。
- 8、まとめ～あらためて現代における「死」の意味を考える。
【授業外学修】アップされた資料を事前に読んでおくこと。アンケートに疑問・質問等を書くこと。

* 講義資料は事前に教務情報ポータルにアップしておくので、事前に読んで分からない用語等はあらかじめ調べておくこと。

* レスポンスシート（アンケート）提出、翌週に回答・解説。

履修上の注意/Notes

- ・遅刻は原則として認めない。
- ・レジメは再配布しない。
- ・オフィス・アワーは金曜日の昼休み。

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルに事前にアップする。
アンケート、レポートもポータルを通じて提出する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 日本思想史の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 日本思想史の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 日本思想史の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 日本思想史の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 日本思想史の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポート(70%)とレスポンスシートの内容(30%)により成績を評価する。レポートの内容は授業中に指示する。
評価の観点には到達目標による。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：なし（レジメを配布する）。
----	-------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地獄めぐり
著者名	川村邦光
出版社	筑摩書房
出版年	2000
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	死者のゆくえ
著者名	佐藤弘夫
出版社	岩田書院
出版年	2008
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	死者の花嫁 葬送と追想の列島史
著者名	佐藤弘夫
出版社	幻戯書房
出版年	2015
ISBN	
教材費	2640

参考書4

書名	「お墓」の誕生—死者祭祀の民族誌
著者名	岩田重則
出版社	岩波書店
出版年	2006
ISBN	
教材費	

参考書5

書名	往生際の日本史 人はいかに死を迎えてきたのか
著者名	小山聡子
出版社	春秋社
出版年	2019
ISBN	
教材費	2200

参考書6

書名	弔いの文化史 日本人の鎮魂の形
著者名	川村邦光
出版社	中央公論新社
出版年	2015
ISBN	
教材費	968

参考書7

書名	死と骨の習俗
著者名	藤井正雄
出版社	双葉社
出版年	2000
ISBN	
教材費	

参考書8

書名	闇の日本美術
著者名	山本聡美

出版社	筑摩書房
出版年	2018
ISBN	
教材費	968

参考書9

書名	死体は誰のものか 比較文化史の視点から
著者名	上田信
出版社	筑摩書房
出版年	2019
ISBN	
教材費	880880

参考書10

書名	地獄
著者名	石田瑞磨
出版社	法蔵館
出版年	2020
ISBN	
教材費	1320

参考書11

書名	死ぬ瞬間 死とその過程について
著者名	エリザベス・キューブラー＝ロス
出版社	中央公論新社
出版年	2020
ISBN	
教材費	1210

参考書12

書名	死
著者名	ウラジミール・ジャンケレヴィッチ
出版社	みすず書房
出版年	1978
ISBN	
教材費	

参考書13

書名	「死」とは何か
著者名	シェリー・ケーガン
出版社	交響社
出版年	2019

ISBN	
教材費	2822

参考書14

書名	平田篤胤—靈魂のゆくえ
著者名	吉田真樹
出版社	講談社
出版年	2017
ISBN	
教材費	1155

参考書15

書名	靈魂觀の系譜—歴史民俗学の視点
著者名	桜井徳太郎
出版社	講談社
出版年	1989
ISBN	
教材費	

参考書16

書名	死後の世界
著者名	渡辺照宏
出版社	岩波書店
出版年	1959
ISBN	
教材費	

参考書17

書名	地獄の話
著者名	山辺習学
出版社	講談社
出版年	1981
ISBN	
教材費	

参考書18

書名	死を前にした人間
著者名	フィリップ・アリエス
出版社	みすず書房
出版年	1990
ISBN	
教材費	9240

参考書19

書名	地獄と極楽―『往生要集』と貴族社会
著者名	速水侑
出版社	吉川弘文館
出版年	1998
ISBN	
教材費	

参考書20

書名	死と病と看護の社会史
著者名	新村拓
出版社	法政大学出版局
出版年	1989
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7882	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	谷口 基（MOTOI TANIGUCHI）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

近代日本小説の実験性Ⅱ

授業の概要/Course Overview

明治期から昭和期までを視野におさめ、日本の近代小説における実験的な試みについて解説します。作品分析のみならず、背景となった時代や社会との関連性についても触れ、受講者が文化と人間との有機的な関係に思いをめぐらせつつ、各々の世界観を広げることができるようなかたちで文学作品に親しむことができるような手引きとなるようにつとめます。

キーワード/Keyword(s)

小説 神話 民間伝承 深層心理 ミステリ ナラトロジー

到達目標/Learning Objectives

文学作品の鑑賞を通じて、微妙な心理のゆらぎを注視する感性と理解力を養い、背景となる社会・歴史の実相に思いをめぐらせるとともに、想像力と文化の重要性について深く考察することができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。授業内容や評価方法の説明なども行う。
- 【授業内容】「越境」する／常識や世界観を相対化する視座について解説。ミニッツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全2回。
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。
- 【授業内容】「虚構」を築く／フィクションにおける真実の可能性について解説。ミニッツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全2回
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。
- 【授業内容】「謎」を仕掛ける／物語における「謎」を発見することの意義について解説。ミニッツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全2回。
- 6、まとめ
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。

履修上の注意/Notes

シラバス作成時点ではコロナウィルスの蔓延がどの程度押さえられているかは予想不能です。従って、以下の文言は、リモート授業として開講された場合には適さないケースも記されていますが、ご了承ください。

受講希望者が多数になる場合があります。受講者制限はしませんが受講時、さらには入退室のマナーを十分に心がけてください。20分以上の遅刻は欠席扱いとしますので、注意してください。オフィスアワーは木曜日の昼休みです。

情報端末の活用

原則としてオンライン開講（リアルタイム配信型）といたしましたので、PC等情報端末で受講するための環境を整えておいてください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

学期末に提出するレポート：100%

教科書/Textbook(s)

備考	「教科書：特になし。授業内で関連資料を配付する。」
----	---------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7883	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	佐藤 邦政（Kunimasa Satoh）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代認識論入門

授業の概要/Course Overview

認識論とは、「知っているとはどのようなことなのか」、「より良い知識の獲得方法とは何か」を探究する哲学分野である。近年、伝統的な個人中心の認識論が批判され、新たに知識獲得の社会的・政治的側面が議論されるようになってきている。その流れのなかで、個人についても、特定の社会の一員としての認識主体や主体同士の対人関係が焦点にあてられ、それに伴って知識獲得の実践における倫理的問題も論じられるようになってきている。

本授業は、西洋哲学における認識主体について、古代から近代、そして、現代の認識論を概観しながら、知識とは何か、および、知識の価値とは何かに関する様々な問いを多角的に検討することを目的とする。具体的なテーマとして、知識の条件と認識主体、認識主体の社会的位置づけ、信念の倫理、有徳および悪徳な認識的行為者、認識的不正義、知識主体の形成について取り上げる。

キーワード/Keyword(s)

知識の古典的定義、ゲティア問題、徳信頼性主義、徳責任主義、証言の認識論、認識的責任、信念の倫理、認識的不正義

到達目標/Learning Objectives

本授業の到達目標は、学生が、認識論の時代背景と問題設定の基本を理解したうえで、知識や正当化についての問いを自分自身で考えていけるようになることである。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeamsを使用した同時双方向の授業で実施する。

- 1回 導入：認識論とは何か—懐疑論的論証を通じて—
- 2回 知識の基本条件、知識の価値
- 3回 ゲティア問題
- 4回 正当化についての基礎づけ主義と整合主義
- 5回 内在主義と外在主義：プロセス信頼性主義
- 6回 徳信頼性主義
- 7回 徳責任主義と信念の倫理
- 8回 証言の認識論と認識的不正義

【授業外学修】

事前学修としては、毎回の授業で教科書指定の文献の該当箇所を示すので、次回の講義に臨む前に読んでおく。（毎回20分以上）事後学修としては、毎講義で配布される資料を読みなおし、基本的な概念や考え方を整理し、自分の考えを進めてみる。（毎回70分以上）

最終レポート課題は、講義の中で扱われる主題から好きなものを選び、みずからテーマを設定し、自分の考えを説得的に述べることである。その準備のため、講義中に示した話題をもとに、みずからの考えをまとめる。（6時間以上）

事前・事後学修のために、Eメールでの質問など受け付けます。簡単に思える疑問でも、その疑問を深めることで従来の学説に見られない重要な論点の発見につながる場合があります。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第2回以降については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、あるいは、発表を行う。
- (2) 毎回の授業終了時は、ミニペーパーによる課題を課し、学生一人一人が批判的思考を発揮できるようにする。

履修上の注意/Notes

遅刻は、15分以内まで入室を許可し、それ以後は認めない。

哲学は対話が大事であるため、講義者を含めて誰かが発言をしているときには、とくに私語は厳禁とする。

情報端末の活用

課題レポートについては、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：現代認識論の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに関連する問いについて自分で独自に考えることができる。

A：現代認識論の基本的な知識と考え方を修得し、さらに関連する問いについて自分で明確に考えることができる。

B：現代認識論の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに関連する問いについて自分で明確に考えることができる。

C：現代認識論の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらに関連する問いについて自分である程度、考えることができる。

D：現代認識論の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに関連する問いについて自分でまとまった考えを持つことができていない。

成績の評価方法/Grading

本講義の評価は次の三つの要素から成る。

(1) 毎授業時の提出物としての小レポート提出

(2) 1200～1600字程度の最終レポート

(3) 授業中の討論などへの参加度

成績評価の配分は、小レポートが30%、最終レポートが40%、参加度30%となる。

最終試験はない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書なし。PDFファイルを配布する。
----	---------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	善い学びとはなにか：「問いほぐし」と「知の正義」の教育哲学
著者名	佐藤邦政
出版社	新曜社
出版年	2019
ISBN	9784788516489
教材費	2400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7885	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	瀧澤 利行（Takizawa Toshiyuki）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本の医療史

授業の概要/Course Overview

この授業はTeamsによる遠隔授業によって実施されます。Teamsのコードは以下のコードです。

コード名：vcpbctm

日本の医療は、中国大陸や朝鮮半島の医療文化の影響を受けながら、江戸時代以降に独自の発展を遂げてきた。明治維新前後からドイツ医学、第2次世界大戦以降はアメリカ医学の影響を受けながら、今日では平均寿命が世界でも最高水準の国になっている。そのような成果を出すことができた要因とそれにもかかわらず存在している日本の医療の課題について、医療の歴史のトピックスの中から考察する。

キーワード/Keyword(s)

日本の医療思想, 医学教育, 中国医学, ドイツ医学, アメリカ医学, 医療文化

到達目標/Learning Objectives

- 1)日本の江戸時代以降の医療の発展の特徴を説明することができる。
- 2)明治以降の日本の医学の近代化の影響が今日の医療システムに与えている影響を説明することができる。
- 3)日本社会にとっての望ましい医療のあり方について自分の意見を述べるすることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、江戸時代の医療とは何か ―

【授業内容】医学・医療・呪術の概説を行い、医学の歴史的発展段階を学ぶ必要性を理解し、日本の医療史を理解する上での江戸時代の医学の特徴を理解する。

【授業外学修】過去に履修した高等学校科目「日本史」における江戸時代の文化史について、確認しておくこと。

第2回：江戸時代の医療（動画による学習）

【授業内容】江戸時代の医療の実像を、前回授業で学んだ内容の中から江戸時代の医学において特徴的な史実に関わる動画を視聴し、それについて学習者が主体的に考える授業とする

【授業外学修】過去に履修した高等学校科目「日本史」における江戸時代の文化史について、確認しておくこと及び前回の授業内容のプリントによって医学の発展形式について確認しておくこと。

第3回：維新时期・明治前期の医療

【授業内容】近代日本の医学・医療の形成期としての維新时期・明治前期の医学と医療について概観し、漢方医学・オランダ医学からイギリス医学・ドイツ医学と変遷を遂げる過程で医療の実態がどのように変化したかを理解する。

【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって江戸時代の医学の概要について確認しておくこと、明治時代前期の西洋医学受容の背景を

インターネットなどを通じて各自知識を深めること。

第4回：維新时期・明治前期の医療

【授業内容】 明治維新以後の西洋化の流れの中での医学の急速な近代化の過程に関わる重要事項を映像を通して学ぶ。

【授業外学修】 前回の授業内容のプリントによって明治時代前期までの医学の概要について確認しておくこと、および明治維新の歴史的意義について各自で認識を深めること。

第5回：明治後期・大正期・昭和前期の医療

【授業内容】 西洋医学の影響のもとで日本医学が自立性を確立していくと同時に、医学が戦争遂行に協力していった側面があることをも理解し、近代医学の社会に対する両義性を考察する。

【授業外学修】 前回の授業内容のプリントによって明治時代後期までの医学の概要について確認しておくこと。

第6回：明治後期・大正・昭和前期と医療

【授業内容】 第1次・第2次世界大戦下の日本の医療の実相に関わる動画を視聴して、同時期の医療の社会に対する両義性を学習者が主体的に考察する。

【授業外学修】 前々前回前回の授業内容のプリントによって昭和前期までの医学の概要について確認しておくこと。

第7回：戦後日本の医療

【授業内容】 アジア・太平洋戦争終結以降、現代までの日本医学の発展の過程を、アメリカの占領政策における医療改革、高度経済成長、インターネット闘争、公害問題、臓器移植などの課題を交叉させながら多角的に理解する。

【授業外学修】 前回の授業内容のプリントによって大正・昭和前期までの医学の概要について確認しておくこと。

第8回：現代の医療

【授業内容】 第2次世界大戦後に発展した戦後日本の医療の特徴と課題に関する動画を視聴し、戦後日本の医療が有している社会的特徴について理解を深める。

【授業外学修】 前々回の授業内容のプリントによって戦後日本の医学と医療の課題に関する概要について確認しておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

偶数回に行われる動画視聴についてはTeamsでの課題機能において視聴後の感想を記入してもらい、各自のテーマへの関心度を把握いたします。

履修上の注意/Notes

1) 遅刻について、配信開始後10分以内にTeamsにログインしていない場合には遅刻とみなします。また、授業終了時に出席者ダウンロードの際にログアウトされている場合には早退とみなされます。遅刻については、30分以上の遅刻3回につき1回の欠席に相当します。

2) 授業ではTeamsによってパワーポイントや動画を共有していくので、自己のPCを用意すること。

情報端末の活用

講義資料はTeamsで事前配信し、オンラインで双方向授業とするので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業の内容にかかわる5つの課題から1つの課題を選択し、小レポートを1000字以内で作成する。(100点)

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は指定しません。
----	-------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	医学全史：西洋から東洋・日本まで
著者名	坂井 建雄 著・文・その他
出版社	筑摩書房
出版年	
ISBN	4480073612
教材費	1200

参考書2

書名	図説医学の歴史
著者名	坂井建雄著
出版社	医学書院
出版年	2019
ISBN	4260034367
教材費	6380

参考書3

書名	日本医療史
著者名	新村拓編
出版社	吉川弘文館
出版年	2006
ISBN	4642079600
教材費	3850

参考書4

書名	蘭学事始
著者名	杉田玄白著；緒方富雄校註
出版社	岩波書店
出版年	1982
ISBN	400330201X
教材費	660

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	特にありません。日本の医療の発展について関心をもっていただけることを願っています。
--------	--	-------	---

時間割コード	KB7886	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	野口 康彦				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

家族の心理

授業の概要/Course Overview

学童期と思春期を中心とした、現代社会を生きる子どもの精神発達について学び、恋愛と結婚、離婚など、家族や家族内の人間関係について心理学的な視点から学び、理解を深める。そして、子どもの虐待問題など、心理社会的な諸問題について検討する。

キーワード/Keyword(s)

家族心理、心理発達、学童期、思春期、恋愛、結婚、親の離婚、子ども虐待

到達目標/Learning Objectives

- ①1学童期・思春期を生きる子どもの心理発達について理解を深め、結婚や離婚をめぐる家族の心理について学ぶ。
- ②子ども虐待など、家族や家族内の人間関係について、心理学的な視点から考察する力を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1) シラバスを用いたガイダンス 家族とは
- 2) 恋愛の心理
- 3) 結婚の心理
- 4) 学童期の子どもの発達
- 5) 思春期の子どもの発達
- 6) 親の離婚と子どもの心理
- 7) 子ども虐待
- 8) まとめ(45分)、試験(45分)

【授業外学修】

・各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読むことは当然だが、第4回～第5回については、発達心理学に関する書籍や文献を参考にしながら、専門用語等についても理解を深めておくことが望ましい。

履修上の注意/Notes

- (1) 毎回、スライドと必要に応じて参考資料を配布します。
- (2) オフィスアワーは、火曜日の昼休みです。
- (3) 予定は変更となる場合があります。
- (4) 事故による入院あるいは通院治療など、特段の理由が生じて、初回の授業を欠席する場合は事前に連絡をしてください。原則として、初

回の授業に欠席した人の履修は認めません。

(5) チームスへの入室時間が大幅に遅れた場合は、欠席とみなします。

○オフィスアワーは、火曜日の昼休みです。

情報端末の活用

- ・小テスト、あるいは最終回の試験については、別途指示をします。
- ・必要な資料については、チームスにUPします。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 家族の心理に関する心理の基本的な知識と考え方を十分に修得し、家族の抱える現代的な諸問題について説明できている。

A : 家族の心理に関するの基本的な知識と考え方を修得し、家族の抱える現代的な諸問題について説明できている。

B : 家族の心理に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、家族の抱える現代的な諸問題について説明できている。

C : 家族の心理に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、家族の抱える現代的な諸問題について説明できている。

D : 家族の心理に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、家族の抱える現代的な諸問題についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・1～7回の授業における小テスト（各7点×7回＝49点）と8回目の試験（51点）

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	家族の心理－新しい家族のかたち
著者名	小田切紀子・野口康彦・青木聡（編）
出版社	金剛出版
出版年	2017
ISBN	978-4772415774
教材費	2860

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	子どもの心と臨床発達
著者名	野口康彦・櫻井しのぶ
出版社	学陽書房
出版年	2011
ISBN	978-4313380059
教材費	2200

参考書2

書名	キーワードコレクション 心理学
著者名	重野純

出版社	新曜社
出版年	2012
ISBN	978-4788512900
教材費	3740

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7888	ナンバリング	KB-HUM-132-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Intercultural Training Methods B

授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students would also experience cross-culture by playing intercultural training games, discussion, and presentations. The following points will be taken up in this course: Cultural Assimilator, watching a movie about a Japanese immigrant in U.S. and discussing about it .

キーワード/Keyword(s)

Communication, intercultural training, cross-culture, cultural difference, foreign cultures

到達目標/Learning Objectives

The purpose of this course is to know how it is like to adapt in a cross-cultural society. Goal of this course is to experience the cross-cultural atmosphere and learn how to behave in global society. Also, we aim to improve presentation skills and communication skills through activities.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. Lecture about Intercultural Communication and Culture & Behavioral learning
3. Behavioral learning (Barnga)
4. Behavioral learning (group discussion)
5. Cognitive learning(Cultural Assimilator)
6. Cognitive learning(Cultural Assimilator, presentation)
7. Cognitive learning(Cultural Assimilator, presentation)

[Homework]

Review class materials after each class. Prepare for presentation as a group.

[Active Learning]

Students will group up and make presentation at least twice. There is group discussion in every session other than first and last lecture.

履修上の注意/Notes

This course will be partially lecture, mainly discussions and presentation. It includes active learning that student would learn

interculture communication through joining each discussion session.

Basically this course will be conducted in English.

If you are late for three times, it will be counted as an absent.

情報端末の活用

PC等活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Students not only who have actively participated in discussions, but also who have given a well-prepared presentation with clear speaking skills.

A : Students not only who have actively participated in discussions, but also who have given a well-prepared presentation.

B : Students who need more efforts to participate in discussions, but who have given a well-prepared presentation.

C : Students who need more effort to participate in both discussions and presentation.

D : Students not only who have not participated well in discussions, but also who did not prepare their own presentation.

成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Reaction paper 40 %, Presentation 40 % (Once or twice), Discussion 30%.

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--